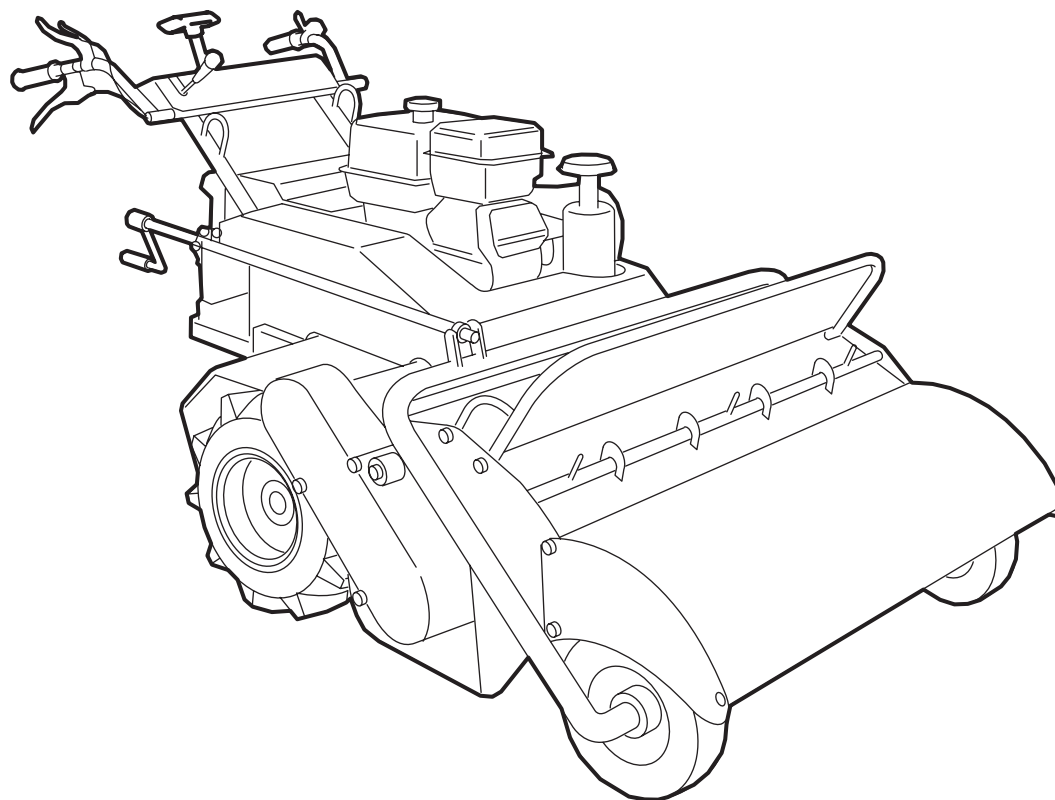


HMC950

ハンマーナイフモア

取扱説明書



“必読”機械の使用前には必ず本書およびエンジンの取扱説明書をお読みください。

Serial No.15776-

BARONESS[®]
Quality on Demand

Ver.2.2

目 次

ごあいさつ.....	3	6. 点検.....	12
はじめに.....	3	6-1. ナイフ軸 Assy の点検.....	12
危険警告記号の説明.....	3	6-2. カバーの点検.....	13
使用上の注意.....	4	6-3. ベルトの点検.....	13
使用目的.....	4	6-4. 油圧作動油の点検.....	14
安全.....	4	6-5. 油圧作動油の補給.....	14
安全上の注意事項.....	5	6-6. 油圧ホースの点検.....	14
トレーニング.....	5	6-7. エアクリーナーの点検.....	14
使用する前に.....	5	6-8. エアクリーナーの清掃.....	15
運転・操作.....	5	6-9. エアクリーナーカバーの点検.....	15
保守.....	6	6-10. バッテリーの点検.....	15
保管.....	7	6-11. バッテリー液の補給.....	16
廃棄.....	8	6-12. 電気配線の点検.....	16
リサイクルおよび廃棄処分.....	8	6-13. タイヤの点検.....	16
リサイクルについて.....	8	6-14. ブレーキの点検.....	16
廃棄処分について.....	8	6-15. クラッチの点検.....	17
製品概要.....	8	6-16. ワイヤの点検.....	17
1. 仕様.....	8	6-17. エンジン周りの点検.....	17
1-1. 仕様表.....	8	6-18. エンジンオイルの点検.....	17
2. 各部の名称.....	9	6-19. エンジンオイルの補給.....	17
3. 規制ラベル.....	10	6-20. 燃料の点検.....	18
3-1. 規制ラベル貼付位置.....	10	6-21. 燃料の給油.....	18
3-2. 規制ラベルの説明.....	10	6-22. 燃料ストレーナーの点検.....	19
機番プレート.....	10	6-23. 燃料ストレーナーの清掃.....	19
4. 警告ラベルと指示ラベル.....	11	6-24. 各部油漏れの点検.....	19
4-1. 警告ラベルと指示ラベルについて.....	11	6-25. 消火器の点検.....	19
4-2. 警告ラベル・指示ラベル貼付位置と説明.....	11	7. 締め付けトルク.....	20
取り扱い説明.....	12	7-1. 標準締め付けトルク.....	20
5. 使用前の準備.....	12	ボルト、ねじ類.....	20
5-1. エアクリーナーオイルの補給.....	12	油圧ホース.....	21

平行ねじ付金具（0 リングシール方式）	21	15-1. メンテナンス時の機械姿勢	35
7-2. 機種別締め付けトルク	22	16. メンテナンススケジュール	35
8. 使用前の調整	23	17. ジャッキアップ	36
8-1. 刈高の調整	23	17-1. ジャッキアップについて	36
9. エンジン始動・停止	23	17-2. ジャッキアップポイント	36
9-1. エンジン始動手順	23	18. グリースアップ	37
9-2. エンジン停止手順	24	18-1. グリースアップについて	37
10. 操作方法	25	18-2. グリースアップ位置	37
10-1. 機械操作上の注意	25	19. 注油	39
10-2. 機械を離れるときの注意	25	19-1. 注油について	39
10-3. 操作ラベルの貼付位置と説明	26	19-2. 注油位置	39
10-4. スロットルレバー	27	20. メンテナンスの方法	39
10-5. 走行レバー	27	20-1. ナイフの反転	39
10-6. ブレーキレバー	28	20-2. ナイフの交換	40
10-7. 操向クラッチレバー	28	ナイフの取り付け、取り外し	40
10-8. ナイフクラッチレバー	29	20-3. ナイフ軸 Assy のバランス取り	41
10-9. エンジン緊急停止スイッチ	29	20-4. ベルトの張り調整	42
10-10. 消火器	30	走行用ベルト	42
10-11. スタンド	30	ナイフベルト（エンジン - 中間軸）	42
10-12. バランスウエイト	31	ナイフベルト（中間軸 - ナイフ軸）	43
10-13. 飛散防止チェーン	31	20-5. ベルトの交換	43
10-14. 計器	31	20-6. 走行レバーの中立調整	44
アワーメーター	31	20-7. ブレーキの調整	44
11. 移動	32	20-8. 操向クラッチの調整	45
11-1. 走行操作	32	20-9. エアクリーナーの交換	45
12. 刈り込み	32	20-10. エンジンオイルの交換	45
12-1. 傾斜地作業について	32	20-11. ミッションオイルの交換	46
12-2. 急傾斜地作業について	32	20-12. 油圧作動油の交換	46
12-3. 刈り込み操作	33	20-13. ヒューズの交換	47
13. 運搬	33		
つり上げ方法	33		
14. 長期保管	34		
メンテナンス	35		
15. メンテナンス上の注意	35		

ごあいさつ

このたびは、パロネス製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
本書は、この製品の正しい取り扱い方法と調整方法、また点検方法について説明しています。
いつまでも優れた性能を発揮させ、安全な作業をしていただきますようお願いいたします。

はじめに

本書を読んで製品の使用方法や整備方法を十分に理解し、他人に迷惑のかからない、適切な方法でご使用ください。
この製品を適切かつ安全に使用するのをお客様の責任です。
整備を行う場合は専門知識のある要員によって作業を行ってください。
整備について、また純正部品についてなど、分からないことはお気軽に弊社代理店、販売店または、弊社にお問い合わせください。
お問い合わせの際には、必ずこの製品の機種名と製造番号をお知らせください。
この製品を貸与または、譲渡する場合はこの製品と一緒に本書をお渡しく下さい。

株式会社 共栄社

危険警告記号の説明

本書では安全に関する重要な取り扱い上の注意事項について、危険警告記号を使用し、次のように表示しています。

	危険警告記号
この記号は「危険」「警告」「注意」に関する項目を意味します。 いずれも安全確保のための重要事項が記載してありますので、注意してお読みいただき、十分理解してから作業を行ってください。 これらを遵守されない場合、事故につながるおそれがあります。	
 危険	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示しています。
 警告	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うおそれがあるものを示しています。
 注意	その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのある、または物的損傷の発生が予測されるものを示しています。
重要	製品の構造などの注意点を示しています。

使用上の注意

注意

本書記載事項は、改良のため予告なしに変更する場合があります。
部品交換を行う場合は、必ず「BARONESS 純正部品」または「弊社指定部品」を使用してください。
純正部品以外の部品を使用して生じた不具合については責任を負いかねます。

この製品を使用する前に下記の取扱説明書を必ずお読みいただき、内容を十分にご理解ください。

- バロネス製品の取扱説明書
- エンジンの取扱説明書
- バッテリーの取扱説明書
- 消火器の取扱説明書

使用目的

危険

この機械は枯れた草の除草作業には使用しないでください。
火災の危険があります。

この製品は、雑草刈り作業を目的とした機械です。
この目的以外で使用したり、機械の改造をしないでください。
この製品をその他の目的で使用したり、改造すると大変危険であり、機械を損傷する原因にもなります。

安全

誤使用や整備不良は負傷や死亡事故につながります。

危険

この製品は、安全な取り扱いができるように設計されており、工場出荷時には十分な試運転、検査を重ねた上で出荷しております。
事故防止のための安全装置は装備しておりますが、これらは適切な操作、取り扱い、および日常の管理方法が大きく影響します。
機械を適切に使用または管理しない場合、人身事故につながるおそれがあります。
以下の安全指示に従い、安全な作業を行ってください。

安全上の注意事項

トレーニング

1. 本書や関連する機器の説明書をよくお読みください。
各部の操作方法や警告ラベル、機械の正しい使用方法に十分慣れておきましょう。
2. オペレーター、整備士が本書で使用している言語が読めない場合には、オーナーの責任において、本書の内容を十分に説明してください。
3. すべてのオペレーター、整備士に適切なトレーニングを行ってください。
トレーニングはオーナーの責任です。
4. 子供(18才未満)や正しい運転知識の無い方には機械を使用させないでください。
地域によっては機械のオペレーターに年齢制限を設けていることがありますのでご注意ください。
5. オーナーやオペレーターは自分自身や他者に対する事故、あるいは器物損壊に対する責任があり、それらを防ぐことができます。
6. 他者に対する事故や器物損壊などについてはオーナー、オペレーター、整備士が責任を負うことに留意してください。
7. 本書には、必要に応じて追加の安全情報が記載されています。
8. 通常の操作位置から機械の左右を決めています。

使用する前に

1. 作業場所を良く観察し、安全かつ適切に作業するには、どのようなアクセサリーやアタッチメントが必要かを判断してください。
メーカーが認めた以外のアクセサリーやアタッチメントを使用しないでください。
2. 作業には安全靴と長ズボン、ヘルメット、保護メガネ、マスク、および聴覚保護具（イヤーマフ）を着用してください。
長い髪、だぶついた衣服、装飾品などは可動部に巻き込まれるおそれがあります。
裸足やサンダルで機械を使用しないでください。
3. 機械が使われる区域を点検し、小石、玩具、および針金のような、機械がはね飛ばす可能性のあるすべての物体を取り除いてください。
4. 子供を作業区域に入れないでください。
オペレーター以外の大人の監視下に置いてください。
5. 燃料の取り扱いには十分注意してください。

警告

燃料は引火性が高いので、以下の注意を必ず守ってください。

- [1] 燃料は専用の容器に保管する。
- [2] 給油はエンジンを始動する前に行う。
エンジンの運転中やエンジンが熱いときに燃料タンクのフタを開けたり給油をしない。
- [3] 給油は必ず屋外で行い、給油中は喫煙しない。
- [4] 燃料がこぼれたらエンジンを始動せずに、機械を別の場所に動かし、気化した燃料ガスが十分に拡散するまで引火の原因となるものを近づけない。
- [5] 燃料タンクや燃料容器のフタは確実に閉める。
6. 運転操作装置（ハンドル、ペダル、レバーなど）、安全装置、防護カバーが正しく取り付けられ、正しく機能しているか点検してください。
これらが正しく機能しないときには機械を使用しないでください。
7. ブレーキの効きが悪い場合は、必ず調整、修理してから使用してください。
8. ハンドルに著しいガタがある場合は、必ず調整、修理してから使用してください。
9. マフラーが破損したら必ず交換してください。
10. 使用前にナイフ、ナイフの取り付けピン、ナイフ軸、ナイフ取り付け状態を目視で点検してください。
バランスを狂わせないようにするために、磨耗や損傷したナイフとボルトはセットで交換してください。

運転・操作

1. アルコールや薬物を摂取した状態で運転をしないでください。
2. 有毒な一酸化炭素ガスがたまる可能性のある閉め切った場所では、エンジンを作動しないでください。
3. エンジンを始動する前に、すべての駆動部を遮断し、走行シフトをニュートラルにして、駐車ブレーキをかけてください。
4. 本書の指示に従い、刈り取り部から足を十分に離れた位置でエンジンを始動させたり、モーターの電源を入れたりしてください。
5. エンジンのガバナーの設定を変えたり、エンジンの回転速度を上げすぎたりしないでください。
エンジンを規定以上の回転速度で使用すると、人身事故を起こす危険が増大します。

6. 高温部に触れないように注意してください。
7. ガードや安全保護装置が破損したり、正しく取り付けられていない状態のまま機械を運転しないでください。
インターロック装置は絶対に取り外さないでください。
正しく調整した状態で使用してください。
8. 回転部に手足を近づけないでください。
9. 機械の駆動中は、機械を持ち上げたり、運んだりしないでください。
10. 周囲に人がいるとき、特に子供やペットがいるときは、絶対に機械を使用しないでください。
11. 十分に明るい場所でのみ運転し、穴や、隠れた危険を避けるようにしてください。
12. 落雷のおそれがあるときは、運転を中断して機械から離れてください。
13. 走らないでください。
14. 急停止、急発進しないでください。
15. できるだけ、濡れた草地での運転を避けてください。
16. 後進するときは、下方と後方の安全に十分注意してください。
17. 旋回するとき、道路を横切るときは減速し、周囲に十分注意してください。
18. 見通しの悪い曲がり角、植え込みや立ち木などの陰では安全に十分注意してください。
19. わき見運転、手放し運転はしないでください。
20. 傾斜地では常に足元に注意してください。
21. 「安全な斜面」はありません。
芝生や草が生えた斜面での走行には特に注意が必要です。
転倒を防ぐために、次の指示に従ってください。
[1] 極端に急な傾斜地では機械を運転しない。
[2] 斜面では急停止、急発進しない。
[3] 走行クラッチがある機械はクラッチをゆっくりつなぐ。
また坂を下る場合は、走行ギヤを入れた状態にする。
[4] 斜面の走行や旋回は低速で行う。
[5] 凸凹や穴、隠れた障害物が無いか常に注意する。
22. 決められた角度以上の傾斜地またはスリップの危険がある場所では、絶対に使用しない。
23. 作業時以外は、刈り取り部への駆動を停止してください。
24. 機械を離れる場合は次を厳守してください。
[1] 平らな場所に停止する。

- [2] すべての駆動を停止する。
 - [3] 駐車ブレーキをかける。
 - [4] エンジンを停止する。
 - [5] エンジンキーを抜き取る。
25. 以下のような状況になった場合には、エンジンを停止してください。
- [1] 燃料を給油するとき。
 - [2] 作業高さや作業深さを調整するとき。
ただし運転位置から遠隔操作で行える場合は除きます。
 - [3] 詰まりを取り除くとき。
 - [4] 機械の点検、清掃、整備作業などをするとき。
 - [5] 機械に異物がぶつかったり、異常な振動を感じたとき。
機械を再始動する前に機械の損傷を点検・修理してください。
26. エンジンを停止するときにはエンジン回転を下げてください。
27. 防護カバーを上げたまま、または取り外したり改造して作業しないでください。
28. 後進刈りをしないでください。
29. 人に向かって排出物を排出しないでください。
壁や障害物に対して排出物を排出しないでください。
排出物は、オペレーターに向かって跳ね返ることがあります。
30. 機械をトラックやトレーラーに積載する場合は、十分注意してください。
積み降ろしは平らな安全な場所で、トラックやトレーラーの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、輪止めをして行ってください。
トラックやトレーラーに積載して移動するときは、機械の駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、強度が十分あるロープなどで機械を固定してください。
あゆみ板を使用する場合は、幅、長さ、強度が十分あり、スリップしないものを選んでください。
31. 機械を輸送する場合は、燃料コックは閉じてください。

保守

1. 絶対に訓練を受けていない人に機械を整備させないでください。
2. 修理・調整・清掃作業の前には以下を行ってください。
[1] 平らな場所で機械を停止する。
[2] 刈り取り部への駆動を停止する。
[3] 駐車ブレーキをかける。
[4] エンジンを停止する。

[5] エンジンキーを抜き取る。

[6] 機械のすべての動きが完全に停止したことを確認する。

3. 点検・整備はマフラーやエンジンが冷めてから行ってください。
4. 火災防止のため、エンジンやマフラーなどの高温部、バッテリー、および燃料タンクの周囲に、余分なグリース、草や木の葉、埃などがたまらないよう注意してください。
オイルや燃料がこぼれた場合はふき取ってください。
5. 調整、整備などに必要な工具類は適切な管理をし、目的に合った工具を正しく使用してください。
6. 修理作業の前にはバッテリーケーブルを取り外してください。
先にマイナスケーブルを取り外してからプラスケーブルを取り外してください。
取り付ける場合は、プラスケーブルから取り付けてください。
7. 機械をジャッキアップする場合は、ジャッキスタンドなどを使用し、確実に支えてください。
8. 可動部に手足を近づけないでください。
可能な限り、エンジンが作動したままで調整作業をしないでください。
9. 配線などが接触したり、被覆のはがれがないように注意してください。
10. すべての部品が良好な状態にあるか点検を怠らないでください。
消耗したり破損した部品やラベルは安全のため早期に交換してください。
11. 常に機械全体の安全を心掛け、ナットやボルト、ねじ類が十分締まっているかを確認してください。
12. 部品を取り外すときなど、スプリングや油圧などの圧力が一気に解放される場合がありますので、注意してください。
13. ナイフの点検を行うときには、安全に十分注意してください。
必ず手袋を着用してください。
悪くなったナイフは必ず交換してください。
絶対に曲げ伸ばしや溶接で修理しないでください。
14. バッテリーの充電は、火花や火気の無い換気の良い場所で行ってください。
バッテリーと充電器の接続や切り離しを行う場合は、充電器をコンセントから抜いておいてください。
また、ゴム手袋や保護メガネなどを着用し、絶縁された工具を使用してください。
15. 燃料タンクから燃料を抜く場合は、屋外で作業をしてください。

保管

1. 閉めきった場所に機械を保管する場合は、エンジンが十分冷えていることを確認してください。
2. 機械にシートをかけて保管する場合は、過熱部分が十分冷めていることを確認してから行ってください。
3. 炎や火花がある屋内では、タンクに燃料が入った状態で保管しないでください。
4. 機械の保管・搬送時には、燃料コックが付いている機械は、燃料コックを閉じてください。
5. 炎の近くに燃料を保管しないでください。

廃棄

リサイクルおよび廃棄処分

リサイクルについて

バッテリーなどは環境保護および資源の有効活用のためにリサイクルされることを推奨します。

また、地域によっては法律により義務付けられています。

廃棄処分について

整備、修理などの作業で出た廃棄物については、地域の法律に従って適切に処分してください。

(例：廃油、不凍液、ゴム製品、配線など)

製品概要

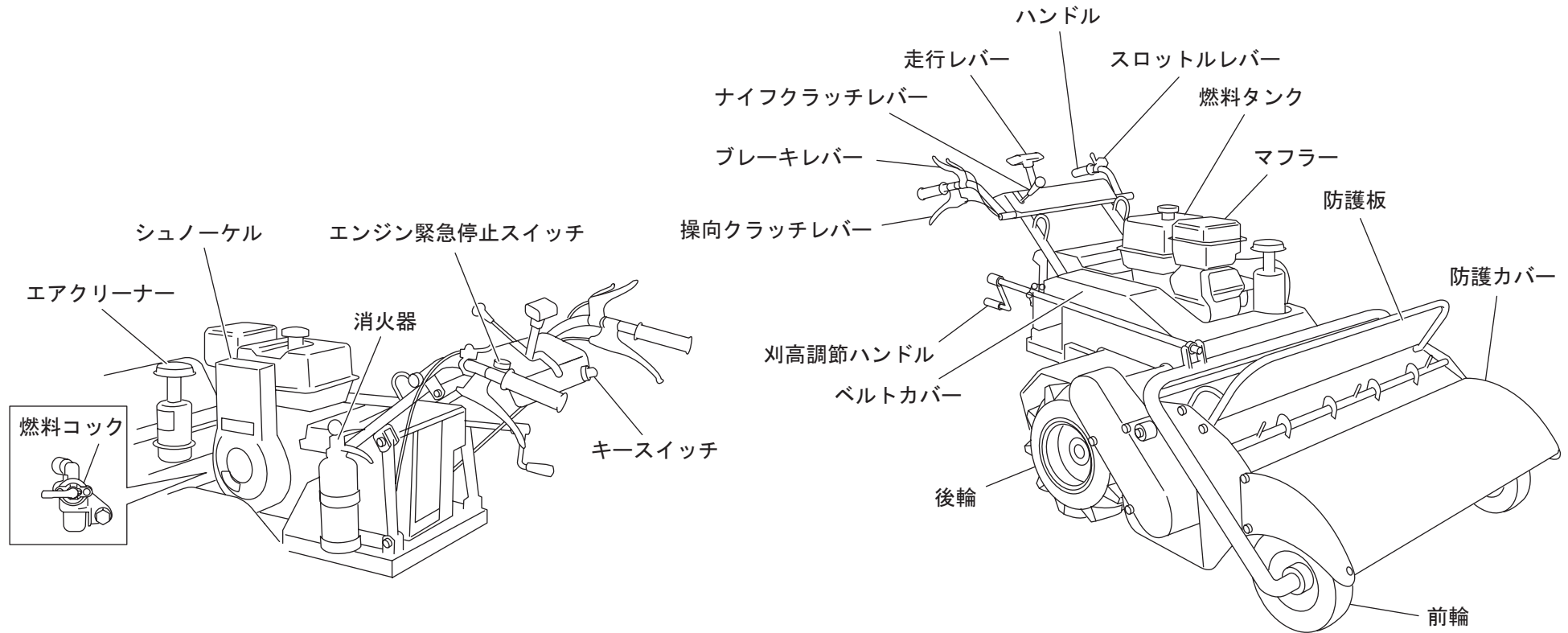
1. 仕様

1-1. 仕様表

機種名		HMC950	
名称		ハンマーナイフモア	
寸法	全長	210 cm	82.68 in
	全幅	115 cm	45.28 in
	全高	100 cm	39.37 in
質量	機械（燃料タンク空）	318 kg	701.06 lb
最小回転半径		-	
エンジン	型式	三菱 GB400PE	
	種類	空冷 4 サイクル傾斜形横軸 OHV ガソリンエンジン	
	総排気量	391 cm ³ (0.391 L)	23.86 cu. in.
	最大出力	9.5 kW (13.0 PS) /4,000 rpm	
	定格出力	6.6 kW (9.0 PS) /3,600 rpm	
燃料タンク容量		ガソリン 6.0 dm ³ (6.0 L)	ガソリン 1.56 U.S. gals
燃料消費率		320 g/kW・h (定格出力時)	435 g/PS・h (定格出力時)
エンジンオイル容量		1.0 dm ³ (1.0 L)	0.26 U.S. gals
冷却水容量		-	
油圧タンク容量		0.5 dm ³ (0.5 L)	0.13 U.S. gals
ミッションオイル容量		1.5 dm ³ (1.5 L)	0.40 U.S. gals
作業幅（刈幅）		95 cm	37.40 in
作業範囲（刈高）		1 - 12 cm	0.39 - 4.72 in
ナイフ枚数		80 枚	
駆動方式	走行	HST 無段階変速方式	
	作業部	メカ方式	
速さ（HST）	前進	0 - 5.7 km/h	0 - 3.54 mph
	後進	0 - 2.3 km/h	0 - 1.43 mph
速さ（メカ）		-	
能率		4,332 m ² /h (5.7 km/h x 刈幅 x 0.8)	1.07 acres/hour (3.92 mph x 刈幅 x 0.8)
使用最大傾斜角度		25 度	
タイヤサイズ	前輪	3.50 - 5	
	後輪	4.00 - 8	
タイヤ空気圧	前輪	200 kPa (2.0 kgf/cm ²)	29.01 psi
	後輪	120 kPa (1.2 kgf/cm ²)	17.40 psi
バッテリー		40B19R	
スパークプラグ		BPR5ES	

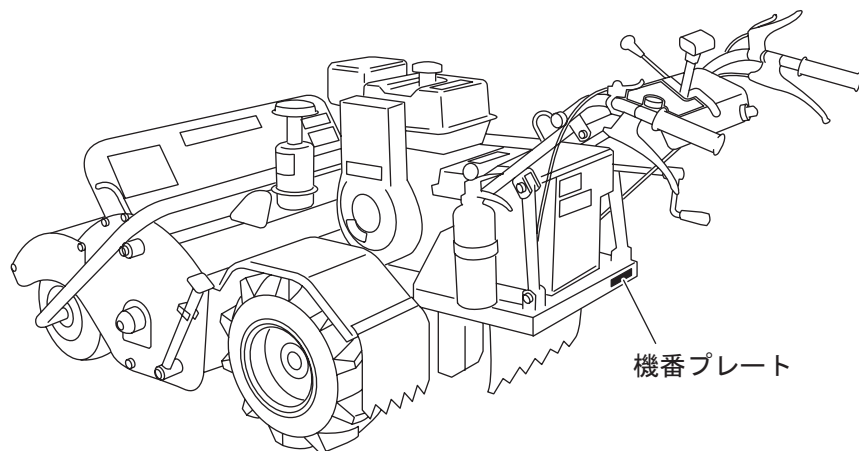
※ 出荷時のエンジン最高回転速度は、3,900 rpm

2. 各部の名称



3. 規制ラベル

3-1. 規制ラベル貼付位置



3-2. 規制ラベルの説明

機番プレート

機番プレートは、機種名と機番が記載されています。

 KYOEISHA CO., LTD.					
○ Head Office 1-26 Miyuki-cho, Toyokawa, Aichi-pref. 442-8530 Japan.	<table border="1"><tr><td>model</td><td></td></tr><tr><td>serial No.</td><td></td></tr></table>	model		serial No.	
model					
serial No.					

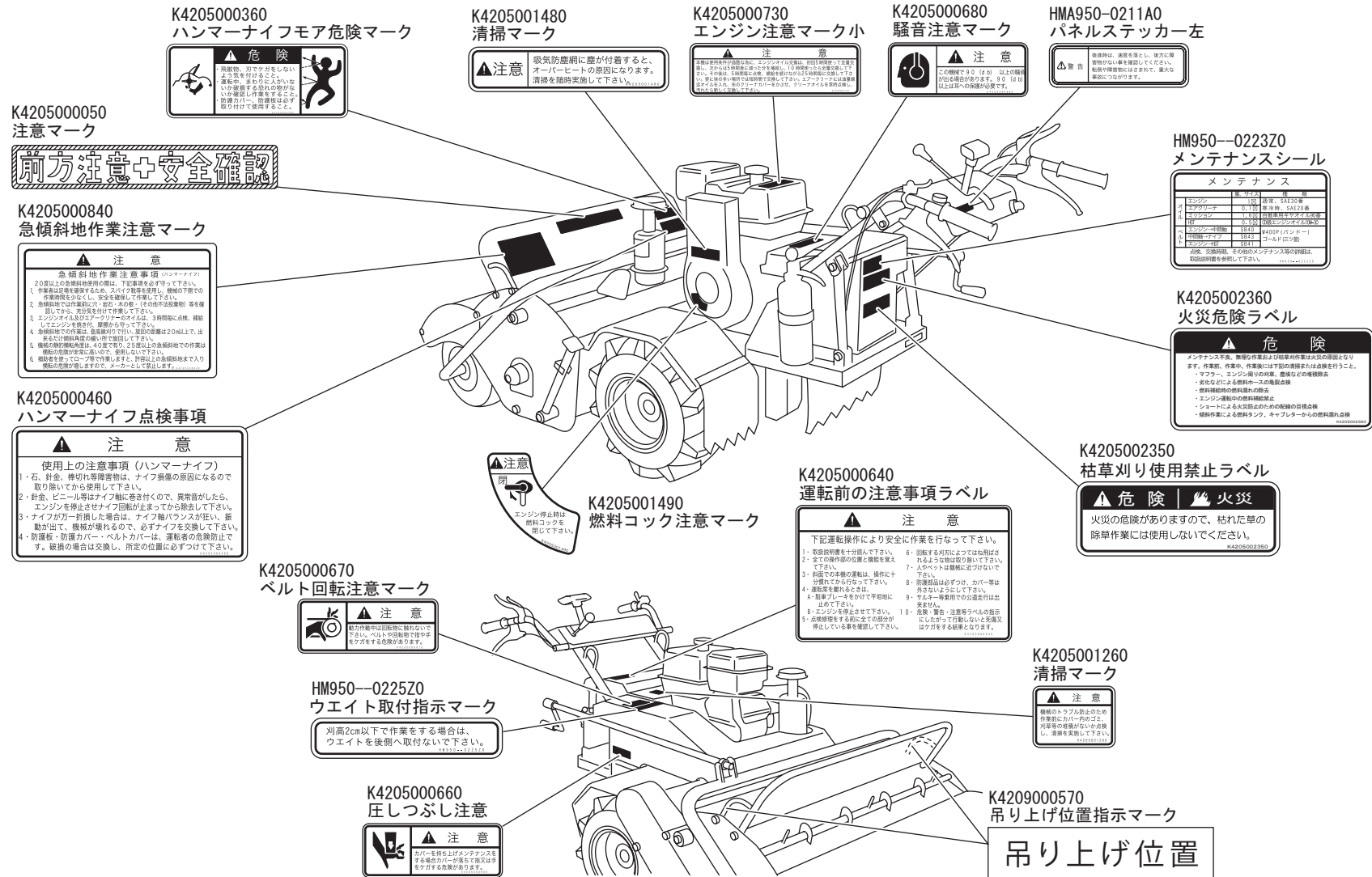
4. 警告ラベルと指示ラベル

4-1. 警告ラベルと指示ラベルについて

重要 この製品には、警告ラベルと指示ラベルが貼り付けられています。ラベルはきれいに保ち、損傷や汚れ、はがれがあった場合は、新しいものと交換してください。

交換するラベルの部品番号は、パーツカタログに記載されております。購入販売店または弊社に注文してください。

4-2. 警告ラベル・指示ラベル貼付位置と説明



取り扱い説明

5. 使用前の準備

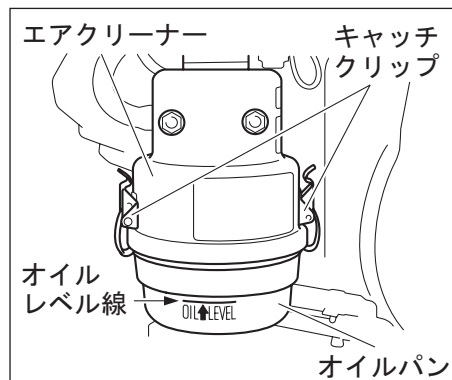
5-1. エアクリーナーオイルの補給

重要

オイルはエンジンオイルと同じものを使用してください。

エアクリーナーには、防塵のためオイルを使用しています。

1. キャッチクリップを外し、オイルパンを取り外してください。
2. オイルパンのオイルレベル線まで、オイルを入れてください。
3. オイルパンを取り付け、キャッチクリップで確実に固定してください。



6. 点検

機械の性能を引き出し、長くご使用いただくために、必ず点検をしてください。

6-1. ナイフ軸 Assy の点検

▲注意

ナイフは刃物です。
手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分気をつけてください。

▲注意

刃物に触れる場合は、手を切るおそれがありますので、手袋を着用してください。

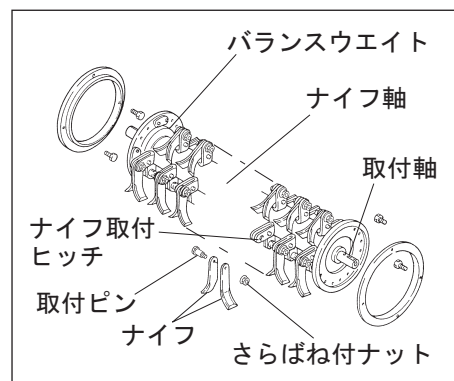
▲注意

ナイフ軸 Assy は高速回転します。
バランスが崩れると異常振動が出て事故や故障の原因になったり、ケガをするおそれがあります。

工場出荷時、ナイフ軸 Assy はバランスを取ってあります。
使用頻度や作業中の異物のかみ込み、移動中での損傷などにより、バランスが崩れて振動が出たり、切れ味が悪くなることがあります。
点検をし、必要に応じて適切な対処をしてください。

以下の対処をしても振動が出る場合は、購入販売店にご相談ください。

部位	点検項目	対処方法
ナイフ	数量	追加（取り付け）
	曲り、損傷、変形	交換
	磨耗	反転または、交換
取付ピン、さらばね付ナット	数量	追加（取り付け）
	向き	取り付け直し
	曲り、損傷、変形、緩み	交換
	磨耗	交換
ナイフ取付ヒッチ	変形	修正または、メーカー修理
	損傷、磨耗	メーカー修理または、交換
バランスウエイト	紛失	メーカー修理
	磨耗	メーカー修理
取付軸	損傷、磨耗	メーカー修理または、交換
ナイフ軸	異物	除去
	歪み	交換
ベアリング	固着	グリースアップ
	磨耗、変形	交換



6-2. カバーの点検

▲ 注意

点検時に防護カバーを取り外した場合は、必ず元の位置に確実に取り付けてください。

防護カバーが取り外されていると、異物が飛散してケガをするおそれがあります。

- 防護カバーなどに磨耗や劣化が無いか確認してください。
- 防護カバーなどに破損が無いか確認してください。
- 防護カバーなどに変形による可動部への干渉が無いか確認してください。
- 防護カバーなどが所定の位置に取り付けられているか確認してください。

6-3. ベルトの点検

▲ 警告

ベルトの点検は、必ずエンジンを停止させた状態で行ってください。

▲ 警告

点検時にカバーなどを取り外した場合は、必ず元の位置に確実に取り付けてください。

カバーなどが取り外されていると、回転物やベルトに触れて、ケガをするおそれがあります。

重要

走行用のベルトは、切れると走行不能になります。

- ベルトの中央を指で押さえて、張り具合を確認してください。
- 亀裂、損傷、異常磨耗が無いか確認してください。

6-4. 油圧作動油の点検

1. 作動油の油面が油圧タンクの上限（最高液面線）と下限（最低液面線）の間にあることを確認してください。
2. 機体の下を確認し、作動油漏れが無いことを確認してください。

6-5. 油圧作動油の補給

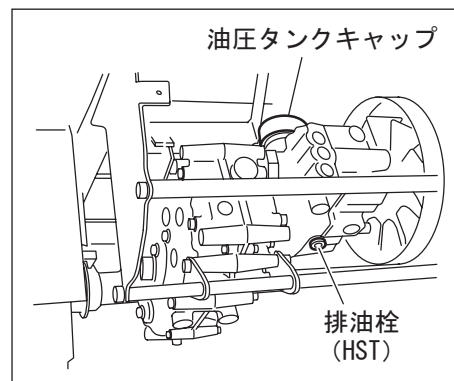
重要

異なった種類の作動油を混ぜないでください。

重要

作動油は、CD 級エンジンオイル 10W-30 を使用してください。

1. 以下の要領で、作動油が少ない場合は補給してください。
 - [1] タンクキャップを開け、中蓋を取り外してください。
 - [2] 作動油を油面が油圧タンクの上限（最高液面線）と下限（最低液面線）の間になるまで入れてください。
 - [3] タンクキャップを確実に閉めてください。
2. エンジンを始動し、前後進を数度繰り返してください。
3. 油面が油圧タンクの上限（最高液面線）と下限（最低液面線）の間にあるか確認し、必要があれば補給してください。
4. 機体の下を確認し、作動油漏れが無いことを確認してください。



6-6. 油圧ホースの点検

警告

油圧回路のピンホール漏出やノズルの油漏れを確認する場合は、絶対に手ではなく、紙や段ボールなどを使用して漏出箇所を探してください。

高圧オイルは、皮膚を突き破ることがあり、人的事故を起こすおそれがありますので、十分注意してください。

万一、油圧作動油が体内に入った場合には、この種の労働災害に経験のある施設で数時間以内に外科手術を受けないと壊疽を起こします。

オイル漏れ、回路の破損、緩み、磨耗、接続部の緩み、気象劣化、および化学的劣化が無いが、配管とホースの確認を行ってください。

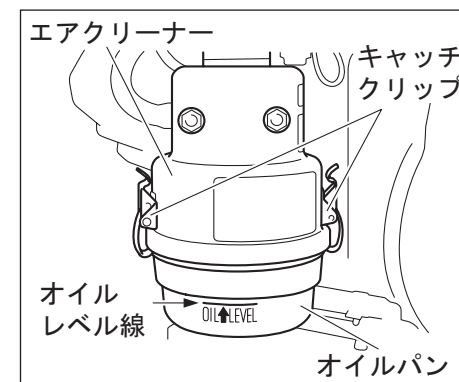
必要があれば、機械を操作する前に修理を行ってください。

6-7. エアクリーナーの点検

エアクリーナーは吸入された吸気に含まれている砂塵を取り、シリンダーライナー、ピストンリングの磨耗を防ぎ、エンジンをいつも快調にする装置です。

エアクリーナーには、防塵のためオイルを使用しています。

- エアクリーナーに損傷が無いか確認してください。
- エアクリーナーエレメントに汚れが無いか確認してください。
- オイルがオイルレベル線まで入っているか確認してください。



6-8. エアクリーナーの清掃

エアクリーナーエレメントが汚れていると、エンジン不調の原因となります。エンジンの寿命を延ばすために適切な清掃をするように心掛けてください。

1. キャッチクリップを外し、オイルパンを取り外してください。
2. エアクリーナーエレメントを取り外してください。

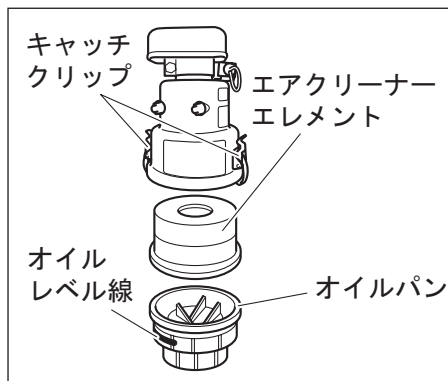
重要

エアクリーナーエレメントは、破損や汚れがある場合は交換してください。

重要

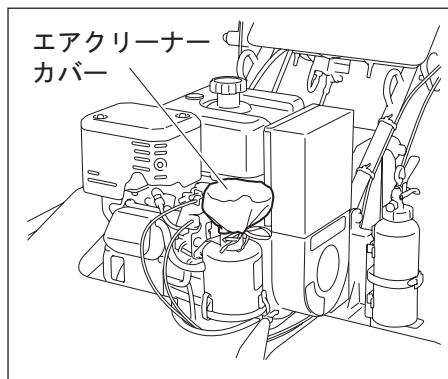
オイルはエンジンオイルと同じものを使用してください。

3. エアクリーナーエレメントは、引火性の低い灯油などの溶剤で洗浄後、エンジンオイルに浸し、滴下しない程度に絞ってください。
4. オイルパンは、引火性の低い灯油などの溶剤で洗浄後、オイルをオイルレベル線まで入れてください。
5. エアクリーナーエレメントを取り付けてください。
6. オイルパンを取り付けてください。



6-9. エアクリーナーカバーの点検

- エアクリーナーにカバー（布袋）が確実にかぶっているか確認してください。
- カバーの汚れがひどい場合は、新品と交換してください。



6-10. バッテリーの点検

⚠ 危険

バッテリーの点検・充電は火気厳禁です。
バッテリーが爆発するおそれがあります。

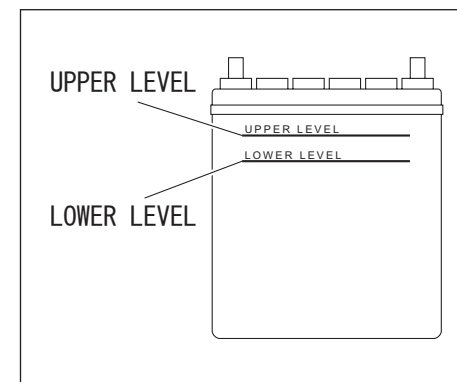
⚠ 警告

バッテリー液の液面を「LOWER LEVEL」（最低液面線）以下にしないでください。
バッテリー液の液面が「LOWER LEVEL」（最低液面線）になったまま使用または、充電するとバッテリーが爆発するおそれがあります。

⚠ 注意

マフラーやエンジンなどが十分に冷めてから行ってください。
火傷をするおそれがあります。

1. 水で湿らせた布で液面線の周囲を清掃してください。
2. バッテリー液の液面が「UPPER LEVEL」（最高液面線）と「LOWER LEVEL」（最低液面線）の間にあることを確認してください。



6-11. バッテリー液の補給

⚠ 危険

バッテリー液が身体や目、服などに付着したり、飲んだりしないように注意してください。

バッテリー液が身体や服に付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

⚠ 危険

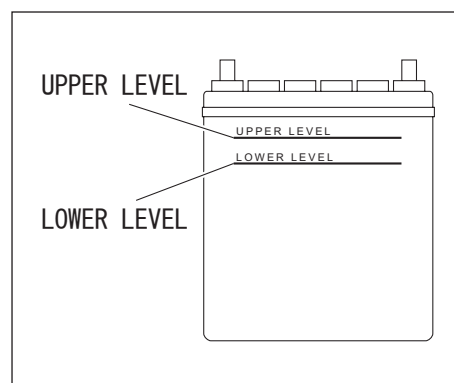
バッテリー液を補給する際は、保護服、保護メガネなどを着用してください。

⚠ 注意

マフラーやエンジンなどが十分に冷めてから行ってください。

火傷をするおそれがあります。

1. バッテリー液の液面が「UPPER LEVEL」（最高液面線）と「LOWER LEVEL」（最低液面線）間の半分以下に低下している場合は、「UPPER LEVEL」（最高液面線）まで精製水を補給してください。



6-12. 電気配線の点検

重要

電気配線の短絡は火災、漏電、電気機器の故障の原因となります。

端子の接続不良、配線・端子の損傷、接続部の緩み、気象劣化、および化学的劣化が無い、電気配線の確認を行ってください。

必要があれば、機械を操作する前に修理を行ってください。

6-13. タイヤの点検

- タイヤの空気圧を確認してください。

- 亀裂、損傷、異常磨耗が無い確認してください。

	タイヤサイズ	空気圧
前輪	3.50 - 5	200 kPa (2.0 kgf/cm ²)
後輪	4.00 - 8	120 kPa (1.2 kgf/cm ²)

6-14. ブレーキの点検

⚠ 注意

機械を水平な場所に駐車してください。

傾斜地での駐車は絶対にしないでください。

重要

走行中のブレーキ操作はブレーキシューの異常磨耗や焼き付きの原因になります。ブレーキレバーを操作するときは走行レバーを中立にしてください。

1. ブレーキレバーを握り、ブレーキが完全に動作するか確認してください。
2. ブレーキレバーを強く握ったとき、ブレーキレバーがロックされるか確認してください。
3. ロック解除レバーを握ったとき、ブレーキレバーのロックが解除されるか確認してください。
4. ブレーキレバーのロックを解除したとき、ブレーキの引きずりが無いことを確認してください。

6-15. クラッチの点検

1. クラッチレバーを操作し、クラッチが完全に動作するか確認してください。
2. クラッチレバーの作動状態が良好か確認してください。

6-16. ワイヤーの点検

- ワイヤーに亀裂、損傷が無いことを確認してください。
- 亀裂、損傷などがある場合は、直ちに交換してください。

6-17. エンジン周りの点検

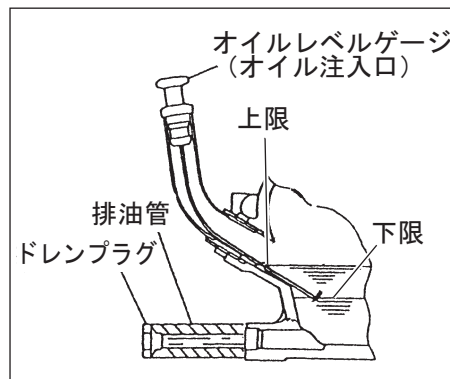
- 燃料系統の部品は、ひび割れや漏れが無いかを確認し、必要があれば交換してください。
- マフラーやマフラーの周りに、草や葉および可燃物が付着している場合は、圧縮空気を吹きつけて清掃してください。

6-18. エンジンオイルの点検

重要

オイルレベルゲージは、確実にねじ込んでください。

1. オイルレベルの点検は、エンジンを停止し、10 - 20 分後に行ってください。
2. エンジンを水平な状態にし、オイル注入口からオイルレベルゲージをねじ込まずにエンジンオイル量を調べてください。
3. エンジンオイル量が上限と下限の間にあれば適量です。



6-19. エンジンオイルの補給

重要

エンジンオイルの入れ過ぎは、エンジンの破損事故の原因となります。

重要

絶対に異なった種類のエンジンオイルを混ぜないでください。

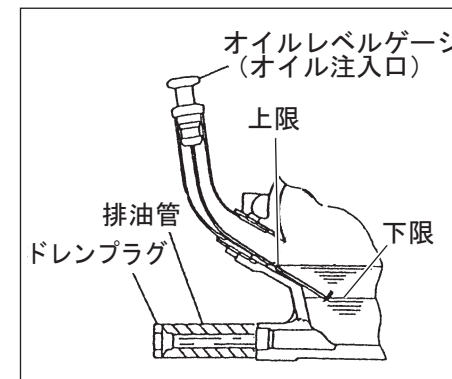
重要

エンジンオイルは、API サービス分類の SE 級以上で、使用環境（気温）に合わせた SAE 粘度のオイルを使用してください。

重要

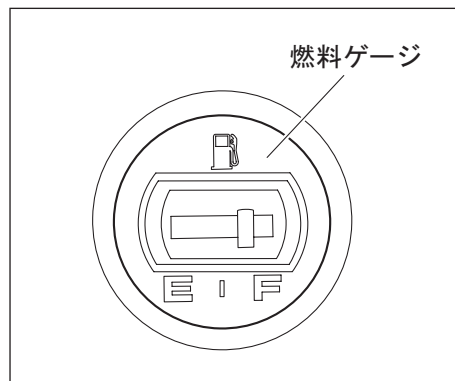
オイルレベルゲージは、確実にねじ込んでください。

1. オイルレベルゲージを取り外してください。
2. オイル注入口から新しいエンジンオイルの油面がオイルレベルゲージの上限になるまでエンジンオイルを入れてください。
3. エンジンを水平な状態にし、オイル注入口からオイルレベルゲージをねじ込まずにエンジンオイル量を調べてください。
4. オイルレベルゲージを確実にねじ込んでください。



6-20. 燃料の点検

機械を水平な状態にし、燃料タンク上の燃料ゲージにて、量の確認をしてください。



6-21. 燃料の給油

警告

燃料ゲージの FULL の位置以上に給油はしないでください。
燃料を入れ過ぎると、傾斜地での走行・作業時などにタンクキャップより燃料があふれる可能性があります。

警告

燃料給油時は、火気厳禁です。
喫煙しないでください。

警告

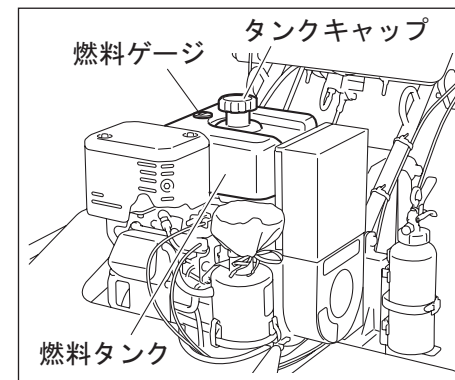
燃料の給油はエンジンを停止し、十分冷えてから行ってください。

注意

高温部に触れないように注意してください。

燃料タンク上の燃料ゲージが、E (EMPTY) に近づいたら早めに燃料 (ガソリン) の給油を行ってください。

燃料タンク容量は、約 6.0 dm³ (6.0 L) です。



6-22. 燃料ストレーナーの点検

燃料ストレーナーは、燃料タンク近くに取り付けてあり、キャブレターへの流入燃料をきれいにします。

燃料の流れが悪くなったら、必要に応じて清掃または、交換してください。

- 燃料漏れが無いか確認してください。
- 傷、汚れが無いか確認してください。

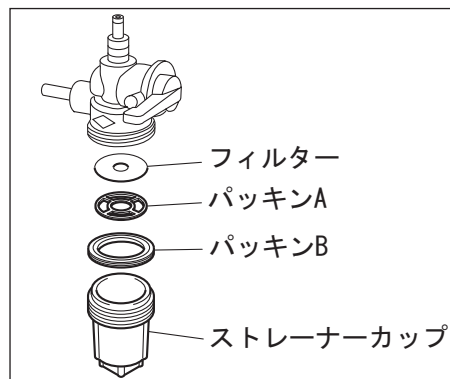
6-23. 燃料ストレーナーの清掃

燃料ストレーナーは、埃やゴミがたまると燃料の流れが悪くなります。
定期的に清掃を行ってください。

重要

燃料ストレーナーの清掃は、埃やゴミの無い清潔な場所で行ってください。

1. 燃料フィルターの燃料コックを閉じてください。
2. 燃料コックのストレーナーカップを取り外してください。
3. ストレーナーカップ内部とフィルターを引火性の低い灯油などの溶剤で洗浄してください。
4. 圧縮空気で乾燥させてください。



重要

取り付けるときは、チリや埃が付着しないように注意してください。
燃料内にチリや埃などが混入すると、燃料の流れが悪くなります。

5. 元のように正しく組み付けてください。
6. 燃料タンクに燃料を満たし、燃料コックを開いてください。
7. 燃料漏れが無いか確認してください。

6-24. 各部油漏れの点検

50 時間くらい使用すると、締め付け部の緩みなどが発生し、オイルやグリースが漏れる可能性があります。

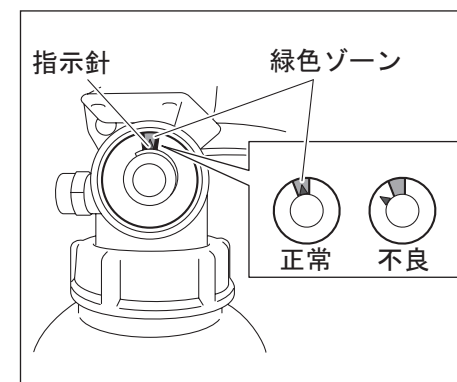
必ず増し締めを行ってください。

機械の下を確認し、オイルやグリースなどの漏れが無いか確認してください。

6-25. 消火器の点検

消火器の点検を怠ると緊急時に消火器が作動しない場合があります。

1. 消火器の有効期限を確認してください。
2. 消火器にさび、傷、変形が無いか確認してください。
3. キャップや部品の緩みが無いか確認してください。
4. 安全栓と安全栓封印シールが付いているか確認してください。
5. 充てん済封印シールが付いているか確認してください。
6. 指示圧力計の指示針が緑色ゾーンを指していることを確認してください。



7. 締め付けトルク

重要

締め付けトルク一覧を参照してください。

異常な締め付け、オーバートルクでの締め付けなどで生じた不具合については、弊社では責任を負いかねます。

重要

各部には、ボルト止めが多く使われております。使用初期はボルト、ナットなどの緩みが出る場合がありますので、必ず増し締めを行ってください。

7-1. 標準締め付けトルク

ボルト、ねじ類

特別指示のないボルト、ナットは、適切な工具により適正な締め付けトルクで締め付けてください。

締め付けが強すぎると「ねじ」は緩んだり、破損したりします。

締め付け強さは、ねじの種類、強度、ねじ面や座面の摩擦などで決めております。

一覧表は、亜鉛メッキまたはパーカー処理したボルトを対象としております。めねじの強度が弱い場合は適用できません。

さびていたり、砂などが付着している「ねじ」は、使用しないでください。

所定の締め付けトルクを与えても締め付け不足になります。

ねじ面の摩擦が大きくなり、締め付けトルクのほとんどを摩擦損失し、締め付ける力になりません。

「ねじ」が水や油で濡れている場合は、通常の締め付けトルクで締めないでください。ねじが濡れるとトルク係数が小さくなり、締め過ぎになります。

締め過ぎると、ねじが伸びて緩んだり、破損することがあります。

一度、大きな負荷がかかったボルトは、使用しないでください。

インパクトレンチで締めるときは、熟練が必要です。

できるだけ安定した締め付け作業ができるように練習してください。

呼び径	一般ボルト		
	強度区分 4.8		
	  		
	N-m	kgf-cm	lb-in
M5	3 - 5	30.59 - 50.99	26.55 - 44.26
M6	7 - 9	71.38 - 91.77	61.96 - 79.66
M8	14 - 19	142.76 - 193.74	123.91 - 168.17
M10	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34
M12	52 - 67	530.24 - 683.20	460.25 - 593.02
M14	70 - 94	713.79 - 958.52	619.57 - 831.99
M16	88 - 112	897.34 - 1142.06	778.89 - 991.31
M18	116 - 144	1,182.85 - 1,468.37	1,026.72 - 1,274.54
M20	147 - 183	1,498.96 - 1,866.05	1,301.10 - 1,619.73
M22	295	3,008.12	2,611.05
M24	370	3,772.89	3,274.87
M27	550	5,608.35	4,868.05
M30	740	7,545.78	6,549.74

呼び径	調質ボルト					
	強度区分 8.8			強度区分 10.9		
	  			  		
	N-m	kgf-cm	lb-in	N-m	kgf-cm	lb-in
M5	5 - 7	50.99 - 71.38	44.26 - 61.96	7 - 10	71.38 - 101.97	61.96 - 88.51
M6	8 - 11	81.58 - 112.17	70.81 - 97.36	14 - 18	142.76 - 183.55	123.91 - 159.32
M8	23 - 29	234.53 - 295.71	203.57 - 256.68	28 - 38	285.52 - 387.49	247.83 - 336.34
M10	45 - 57	458.87 - 581.23	398.30 - 504.51	58 - 76	591.43 - 774.97	513.36 - 672.68
M12	67 - 85	683.20 - 866.75	593.02 - 752.34	104 - 134	1,060.49 - 1,366.40	920.50 - 1186.03
M14	106 - 134	1,080.88 - 1,366.40	938.21 - 1,186.03	140 - 188	1,427.58 - 1,917.04	1,239.14 - 1,663.99
M16	152 - 188	1,549.94 - 1,917.04	1,345.35 - 1,663.99	210 - 260	2,141.37 - 2,651.22	1,858.71 - 2,301.26
M18	200 - 240	2,039.40 - 2,447.28	1,770.20 - 2,124.24	280 - 340	2,855.16 - 3,466.98	2,478.28 - 3,009.34
M20	245 - 295	2,498.27 - 3,008.12	2,168.50 - 2,611.05	370 - 450	3,772.89 - 4,588.65	3,274.87 - 3,982.95
M22	—	—	—	530	5,404.41	4,691.03
M24	—	—	—	670	6,831.99	5,930.17
M27	—	—	—	1,000	10,197.00	8,851.00
M30	—	—	—	1,340	14,628.78	11,860.34

油圧ホース

管用平行ねじ（G, PF）のついたユニオン継手、およびユニオンアダプターのねじの締め付けトルクは、下記の表のとおりです。

ねじは適正な締め付けトルクで締め付けられ、使用時に緩んだり、漏れたりすることはありません。

流体がシール部から漏れる場合は、無理に締め付けず、シート面のゴミや傷の有無を調べてください。

無理に締め付けると継手の接触部を破損することがあります。

ねじの継手の締め付けは、なるべくトルクレンチで確実に、適正な締め付けトルク値で締め付けてください。

ホースサイズの呼び	管用平行 ねじの呼び G (PF)	締め付けトルク		
		N-m	kgf-cm	lb-in
6	1/4	24.50	250	221.28
9	3/8	49.03	500	564.91
12	1/2	58.84	600	677.89
15	3/4	117.68	1200	1,355.78
19	3/4	117.68	1200	1,355.78
25	1	137.30	1400	1,581.74
32	1-1/4	166.72	1700	1,920.69
38	1-1/2	205.94	2100	2,372.61
50	2	245.17	2500	2,824.54

平行ねじ付金具（O リングシール方式）

平行ねじ付金具（O リングシール方式）のねじの締め付けトルクは、下記の表のとおりです。

アジャスタブル継手は、金具をスパナなどにより強引に設定位置まで締め付けた場合、金具およびワッシャーなどが破損することがあります。必ずサイズごとの締め付けトルクを管理してください。

ねじの呼び	締め付けトルク		
	N-m	kgf-cm	lb-in
1/4	34.32 - 49.03	350 - 500	309.79 - 442.55
3/8	68.65 - 78.45	700 - 800	619.57 - 708.08
1/2	98.07 - 117.68	1000 - 1200	885.10 - 1,062.12
3/4	147.10 - 176.52	1500 - 1800	1,327.65 - 1,593.18
1	245.17 - 274.59	2500 - 2800	2,212.75 - 2,478.28
1-1/4	294.20	3000	2,655.30
1-1/2	294.20	3000	2,655.30
2	392.27	4000	3,540.40

7-2. 機種別締め付けトルク

HMC950

次のボルト、ナットは下記のトルクで締め付けてください。

ねじ緩み止め剤は、ネジロック中強度（スリーボンド 1322 相当品 嫌気性封着剤）を塗布してください。

部位	コード番号	品名	締め付けトルク			ねじ緩み止め剤
			N-m	kgf-cm	lb-in	
フレーム部	K0010080402	8 調質ボルト 40 (ナット)	14 - 19	142.76 - 193.74	123.91 - 168.17	-
前輪・ハンドル部	K0010160702	16 調質ボルト 70	88 - 112	897.34 - 1142.06	778.89 - 991.31	-
ナイフ部	K0010080252	8 調質ボルト 25	14 - 19	142.76 - 193.74	123.91 - 168.17	-
	K0071000552	ナイフ軸プーリー締付ボルト	36 - 40	367.09 - 407.88	318.64 - 354.04	-
	K6083000088 (K0143080002)	10 取付ピン 22 (8 さらばね付ナット)	緩めトルク 14 - 16	緩めトルク 142.76 - 163.15	緩めトルク 123.91 - 141.62	-
飛散防止チェーン	K0010080402	8 調質ボルト 40	14 - 19	142.76 - 193.74	123.91 - 168.17	-

8. 使用前の調整

8-1. 刈高の調整

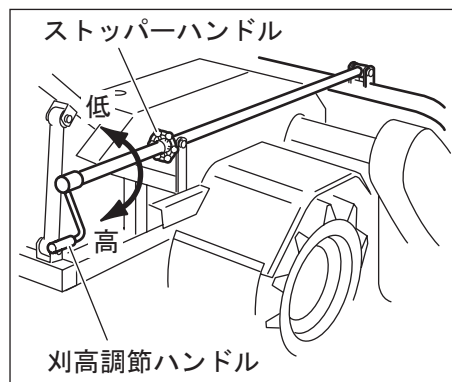
刈り込み作業に応じて、刈高を調整してください。

刈高調節範囲は、1 - 12 cm (0.39 - 4.72 in) です。



刈高調整はエンジンを停止して、すべての駆動が停止していることを確認してから行ってください。

1. 水平な場所でエンジンを停止してください。
2. ストッパーハンドルを緩めます。



3. 刈高調節ハンドルを回し、任意の刈高に設定してください。
刈高調節ハンドルを時計回りに回すと刈高が高くなります。
刈高調節ハンドルを反時計回りに回すと刈高が低くなります。
4. ストッパーハンドルを固定してください。

9. エンジン始動・停止

9-1. エンジン始動手順



エンジンを始動する前に機械の周囲に人や障害物が無いことを確認してください。

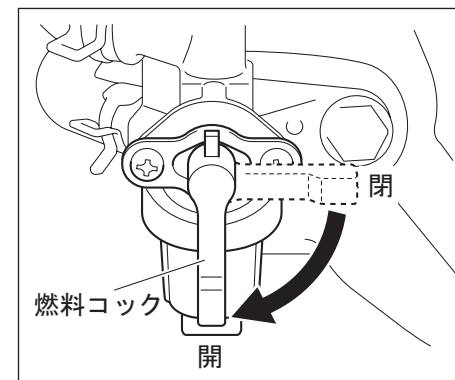


スターターの操作は、最長 15 秒です。
始動しないときは、30 - 60 秒バッテリーを休止させ、消耗を防いでください。

1. キースイッチが「停止」の位置になっていることを確認してください。
2. 走行レバーが「中立」の位置にあり、ブレーキがかかっていることを確認してください。
3. ナイフクラッチレバーが「切」の位置にあることを確認ください。
4. エンジン緊急停止スイッチのポインターが「運転」位置にあることを確認してください。

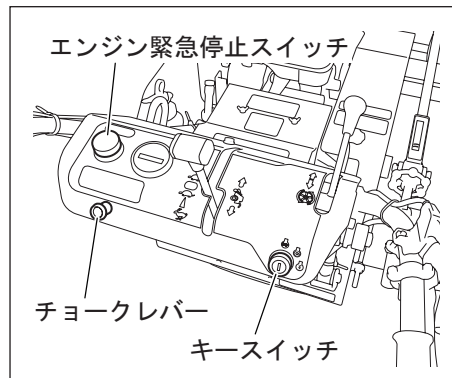


5. 燃料コックを「開」の位置にしてください。

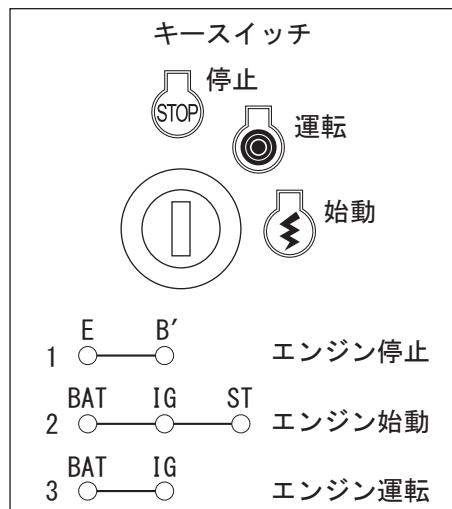


6. スロットルレバーを「低速」側から半分程度「高速」側へ動かしてください。
7. チョークレバーをいっぱいまで引いてください。

再始動の場合は、必要に応じ、半分程度引きます。

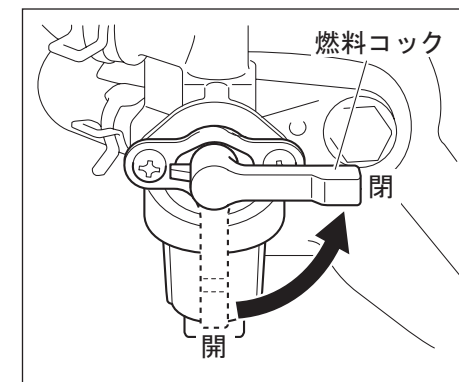


8. キースイッチを「始動」の位置にして、エンジンを始動してください。
9. スターターが回転し、エンジンが始動し始めたらキースイッチを「運転」の位置へゆっくりと戻してください。
10. チョークレバーをいっぱいまで押し込んでください。
11. スロットルレバーを「低速」側にして1 - 2分間、暖機運転します。
12. スロットルレバーを徐々に「高速」側へ動かします。



9-2. エンジン停止手順

1. 走行レバーを「中立」の位置にしてください。
2. ブレーキをかけてください。
3. ナイフクラッチレバーを「切」の位置にしてください。
4. スロットルレバーを「低速」側の位置にしてください。
5. キースイッチを「停止」の位置にしてください。
6. 燃料コックを「閉」の位置にしてください。



参考：

緊急時のエンジン停止方法は、「エンジン緊急停止スイッチ」を参照してください。

10. 操作方法

10-1. 機械操作上の注意



注意

機械を操作する前に、各部品の操作状態が良好であり、特にブレーキ、タイヤ、操向クラッチ、モアユニットに異常が無いか確認してください。



注意

作業地域内の障害物は取り払い、運転者あるいは周囲の人がケガをしないようにしてください。



注意

緊急時の対応として消火器や救急箱などの準備、および連絡手段の確保を行ってください。

10-2. 機械を離れるときの注意



注意

機械を水平な場所に駐車してください。
傾斜地での駐車は絶対にしないでください。



注意

エンジンが確実に停止していることを確認して、キーを抜き取ってください。



注意

ブレーキレバーがロックされていることを確認してください。
ブレーキの効きが悪いときは、輪止めを使用して固定してください。

1. 機械を平らな所に停止させてください。
2. ブレーキをかけてください。
3. エンジンを停止してください。
4. キーを抜いてください。
5. 機械から離れてください。

10-3. 操作ラベルの貼付位置と説明

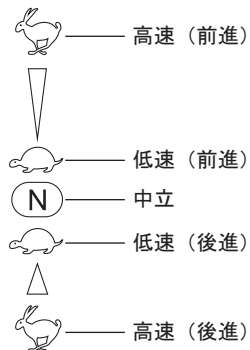
エンジン緊急停止スイッチマーク
エンジン緊急停止スイッチの位置を示しています。

**エンジン緊急
停止スイッチ**

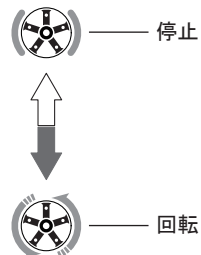
K4203000170
スロットルレバーマーク
エンジン回転速度の高速・低速を示しています。



速度マーク
走行速度の低速・高速を示しています。



ナイフ回転マーク
ナイフの回転・停止を示しています。



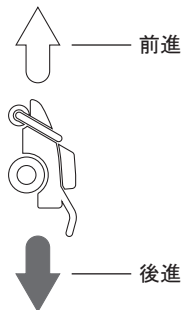
HMA950-0415Z0
刈高目盛シール
刈高の調整範囲を示しています。



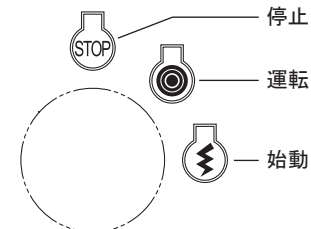
HMA950-0416Z0
刈高指針シール
モアユニットの刈高設定位置を示しています。



前後進マーク
機械の前進・後進を示しています。



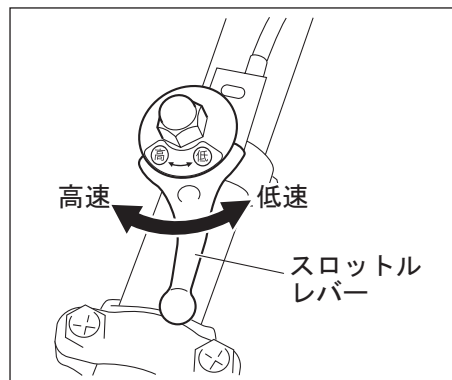
キースイッチマーク
キースイッチの位置を示しています。



10-4. スロットルレバー

スロットルレバーは、ハンドルにあり、エンジン回転速度の高低をレバーで調整します。

スロットルレバーは、「高速」側にするとエンジン回転速度が高くなり、「低速」側にするとエンジン回転速度が低くなります。



10-5. 走行レバー

▲警告

後進時は、後方に障害物が無いことを確認してください。
転倒したり、障害物に挟まれて、重大な事故につながります。

▲注意

走行レバーはゆっくりと入れてください。
急激に入れると機械が急発進します。

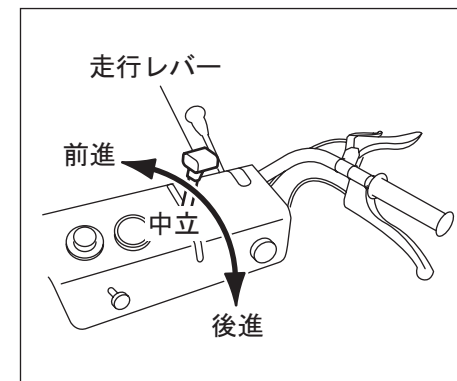
▲注意

前後進の切り替えは、一度レバーを中立にして機械を停止させてから行ってください。

走行レバーを前進方向に動かすと前進します。

走行レバーを後進方向に動かすと後進します。

走行速さは、レバーを倒す角度で調整してください。



10-6. ブレーキレバー

重要

走行中のブレーキ操作は、ブレーキシューの異常磨耗や焼き付きの原因になります。

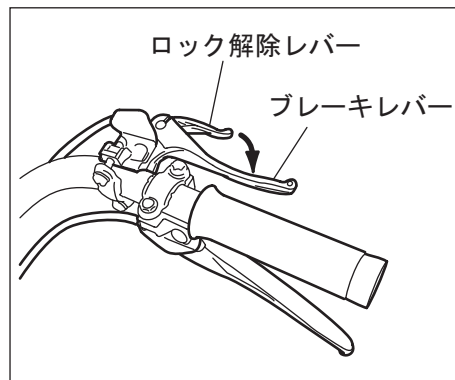
ブレーキレバーを操作するときは、走行レバーを中立位置にしてください。

ブレーキレバーを握るとブレーキがかかり、ブレーキレバーを強く握るとブレーキレバーがロックされます。

ロック解除レバーを握ると、ブレーキレバーのロックは解除されます。

参考：

駐車ブレーキとして使用することができます。



10-7. 操向クラッチレバー

警告

旋回時は、周囲に障害物が無いことを確認してください。
転倒したり、障害物に挟まれて、重大な事故につながります。

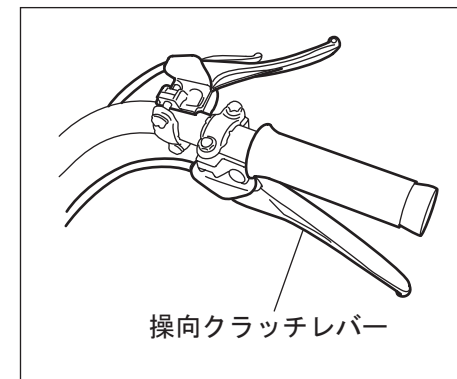
警告

傾斜地では操向クラッチレバーを左右同時に握らないでください。
制御不能になります。

旋回する側の操向クラッチレバーを握り、前輪を浮かせて旋回します。

右側の操向クラッチレバーを握ると右に旋回します。

左側の操向クラッチレバーを握ると左に旋回します。



10-8. ナイフクラッチレバー



警告

ナイフ軸 Assy 回転中はナイフフレームの中に手足を入れないでください。



警告

ナイフクラッチを切っても、しばらくの間ナイフ軸 Assy は慣性により回転します。
ナイフ軸 Assy が完全に止まるまで、あらゆる操作は行わないでください。



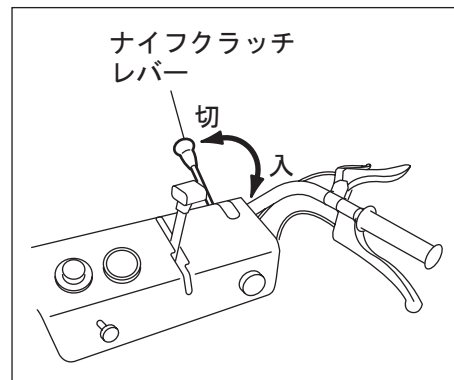
注意

ナイフクラッチレバーは、刈り込む直前に入れ、それ以外のときは、必ず切っておいてください。

重要

ナイフクラッチレバーはゆっくりと入れてください。
急激に入れるとエンストやベルトの損傷につながります。

ナイフクラッチレバーを手前に引くとナイフ軸 Assy が回転します。
ナイフクラッチレバーを押すとナイフ軸 Assy の回転が停止します。



10-9. エンジン緊急停止スイッチ



注意

エンジン緊急停止スイッチは緊急時以外に使用しないでください。



注意

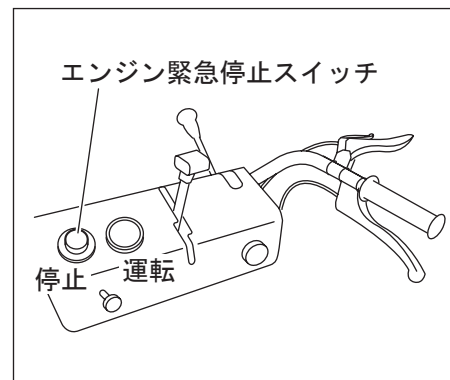
エンジン緊急停止スイッチはブレーキ運動でないため、走行中に押しても機械は急停止しません。

重要

エンジン緊急停止スイッチを使用した場合は、必ずエンジンキーを「停止」の位置にしてください。

エンジンキーを「運転」位置のままにすると電気が流れ続け、バッテリーが消耗します。

エンジン緊急停止スイッチは、緊急時にエンジンを停止するときに使用します。

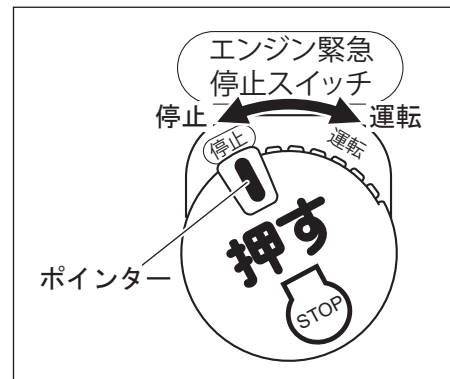


緊急時は、以下の手順でエンジンを停止させます。

1. エンジン緊急停止スイッチを押します。
エンジン緊急停止スイッチのポインターが「停止」位置になり、エンジンが停止します。
2. エンジンキーを「停止」位置にします。

参考：

エンジンを再始動する場合は、エンジン緊急停止スイッチを押しながら右に回して、ポインターを「運転」位置に合わせます。



10-10. 消火器



注意

高温、多湿、腐食性ガスの発生する場所に置かないでください。



注意

(日本国内)

6 ヶ月に 1 回以上の点検を消防設備士などの資格のある人に依頼してください。



注意

ノズルキャップは常時取り付けておいてください。外れたままにしておくと消火剤が固まる可能性があります。

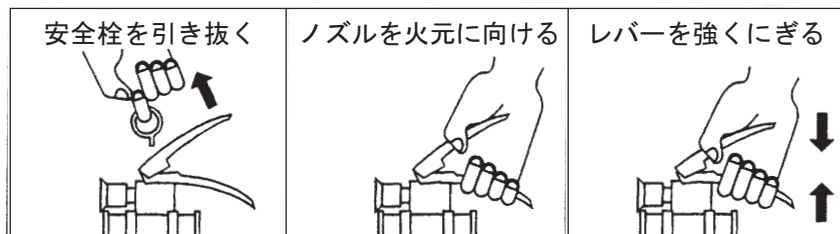


注意

消火器を操作すると急に容器全体に圧力がかかります。
さび、腐食、変形、キャップの緩みがあるもの、また破棄されたものは危険ですから使用しないでください。

この機械は、万が一の火災に備えて消火器を装備しています。
万が一のとき、機械から消火器を取り外して使用してください。

1. 安全栓を引き抜きます。
2. ノズルを火元に向けます。
3. レバーを強く握ります。



10-11. スタンド



警告

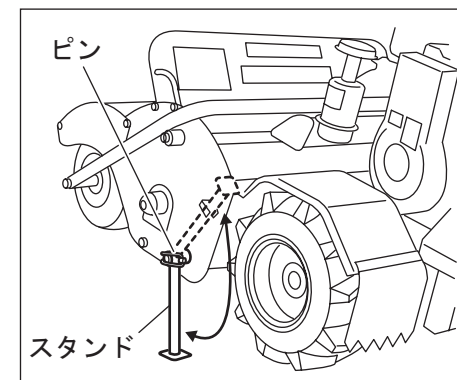
スタンド使用中はナイフ軸 Assy を回転させないでください。



注意

スタンドを使った作業は平坦な場所で行い、スタンドに衝撃が加わらないように注意してください。

スタンドは、ナイフフレーム左側にあります。
ナイフの交換時などナイフフレームを上げて作業する場合に使用してください。



10-12. バランスウエイト

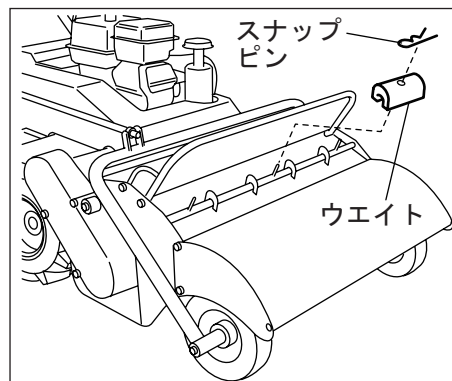


バランスウエイトは、機械を水平な場所に停車させ、エンジンを停止して、すべての駆動が停止していることを確認してから取り付けてください。

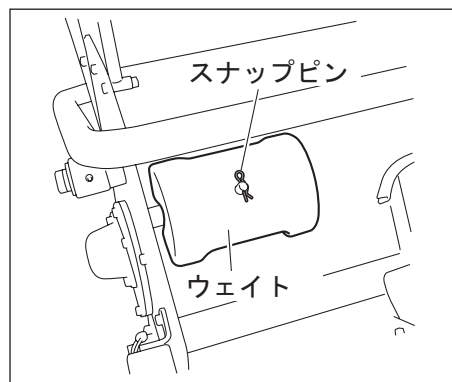
この機械には機械の前後バランスを取るためのバランスウエイトを取り付けることができます。

バランスウエイトは、ナイフフレームの前部または後部に取り付けます。

1. 傾斜地で機械を使用する場合は、バランスウエイトをナイフフレームの前部に2 - 3個取り付けてください。



2. 平地で機械を使用する場合は、バランスウエイトをナイフフレームの後部に2個取り付けてください。



10-13. 飛散防止チェーン

参考：

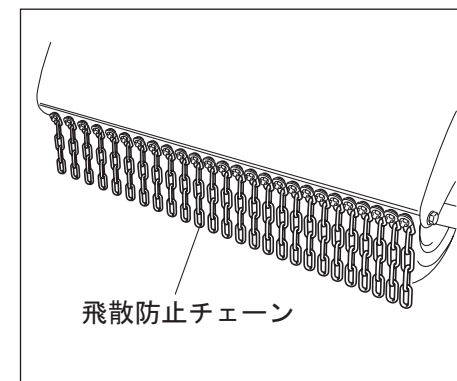
別売りオプションです。

飛散防止チェーンは石などの前方への飛散物を抑制するものです。

住宅地や道路付近の草刈り作業においては飛散防止チェーンを取り付けての作業をお勧めします。

ただし、構造上飛散防止チェーンはすべての飛散物を防止できるものではありません。

作業は常に周囲（特に前方）に注意して行ってください。



10-14. 計器

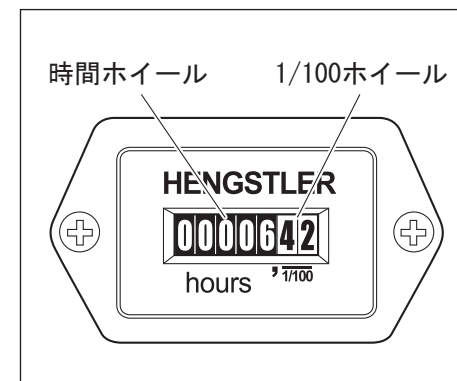
アワーメーター

アワーメーターはエンジンの総運転時間を示します。

36秒経過すると一目盛（白地に赤数字）上がり、1時間経過すると次の目盛（黒地に白数字）が一目盛上がります。

1/100 ホイール・・・白地に赤数字

時間ホイール・・・黒地に白数字



11. 移動

11-1. 走行操作



急発進・急停車は、絶対行わないでください。



どのような場合にも、緊急停止ができる速さで運転してください。

1. エンジンを始動します。
2. ブレーキを解除します。
3. 走行レバーをゆっくりと任意の位置にします。
4. 機械は走行を始めます。
5. 走行レバーを「中立」の位置にします。
6. ブレーキをかけて機械を停止します。

12. 刈り込み

12-1. 傾斜地作業について

傾斜地作業を行うときは、以下のことに注意をして作業を行ってください。

- 傾斜地では、機械の前部にバランスウエイトを取り付けて作業をしてください。
- 傾斜地では、特に作業前に穴・岩石・木の根・（その他不法投棄物）などが無いかを確認してそれらを取り除いてから、十分気をつけて作業をしてください。
- 傾斜地での転倒を防ぐために、斜面の一番下方から等高線に沿って作業し、順番に上方へ移動してください。
ただし、下方から作業できない場合は、傾斜角度の緩いところから等高線に沿って作業をしてください。
- 旋回は、傾斜上方の操向クラッチレバーを握り、旋回してください。
- 安全のために、機械が等高線に沿って停止するようにしてください。
- 燃料は、早めに給油してください。

12-2. 急傾斜地作業について



20 度以上の急傾斜地で使用の際は、以下のことを必ず守ってください。

- ・オペレーターは足場を確保するためにスパイク靴などを着用してください。
- ・転倒やスリップの危険がある場所では、機械を運転しないでください。
- ・旋回はできるだけ傾斜角度の緩い所で行ってください。
- ・25 度（使用最大傾斜地角度）以上の急傾斜地での作業は、横転の危険が非常に高いので使用しないでください。
- ・補助作業者を使ってロープなどで作業しますと、機械が許容以上の急傾斜地まで入り、横転の危険が増し、安全作業ができなくなるので、メーカーとして禁止します。

重要

- ・エンジンを焼き付きや磨耗から守るため、同方向での直進距離を 20 m 以内として旋回してください。
- ・エンジンオイルおよびエアクリーナのオイルは、3 時間ごとに点検、補給を行い、エンジンを焼き付きや磨耗から守ってください。

12-3. 刈り込み操作

⚠ 危険

この機械は枯れた草の除草作業には使用しないでください。
火災の危険があります。

⚠ 警告

後進するときは、ナイフクラッチレバーを「切」の位置にしてください。
転倒したり、障害物に挟まれたとき重大事故につながります。

⚠ 注意

刈り込み作業は、必ず場所にあった速さで行ってください。
凸凹面の刈り込みは、刈り込み速さを遅くして行ってください。

重要

リコイルスターターのシュノーケルに刈草などが付着した場合は取り除いてください。
エンジンのオーバーヒートの原因になります。

1. エンジンを始動します。
2. ブレーキを解除します。
3. スロットルレバーを操作して、エンジン回転速度を最高速にします。
4. ナイフクラッチレバーをゆっくりと「入」の位置にし、ナイフ軸 Assy を回転させます。
5. 走行レバーをゆっくりと任意の位置にし、刈り込みを始めます。

13. 運搬

⚠ 注意

機械を積み降ろしするときは、滑らない靴を着用し、ゆっくりと走行してください。

重要

ロープを掛けて機械を固定するときは、ロープをエンジンに掛けないでください。

重要

ロープを掛けて機械を固定するときは、ワイヤーを曲げないように注意してください。

この機械をトラックやトレーラーに積載する場合は、十分注意してください。
積み降ろしは平らな安全な場所で、トラックやトレーラーの駐車ブレーキをかけ、エンジンを止め、輪止めをして行ってください。
トラックやトレーラーに積載して移動するときは、この機械の駐車ブレーキをかけ、エンジンを止め、強度が十分あるロープなどで機械を固定してください。
あゆみ板を使用する場合は、幅、長さ、強度が十分あり、スリッパしないものを選んでください。

つり上げ方法

⚠ 警告

機械をつり上げる場合は、平らな安定した場所で行ってください。
機械をつり上げる前に安全作業の妨げになる障害物を取り除いてください。
必要に応じ、適切なホイストやクレーンおよび、ロープを使用してください。
つり上げは重心位置に注意してバランスを十分に取ってください。
バランスが十分に取れていない場合は、落ちたりするおそれがあります。
人身事故の原因となります。

重要

指示された位置以外では、つり上げないでください。
フレームや部品が破損します。

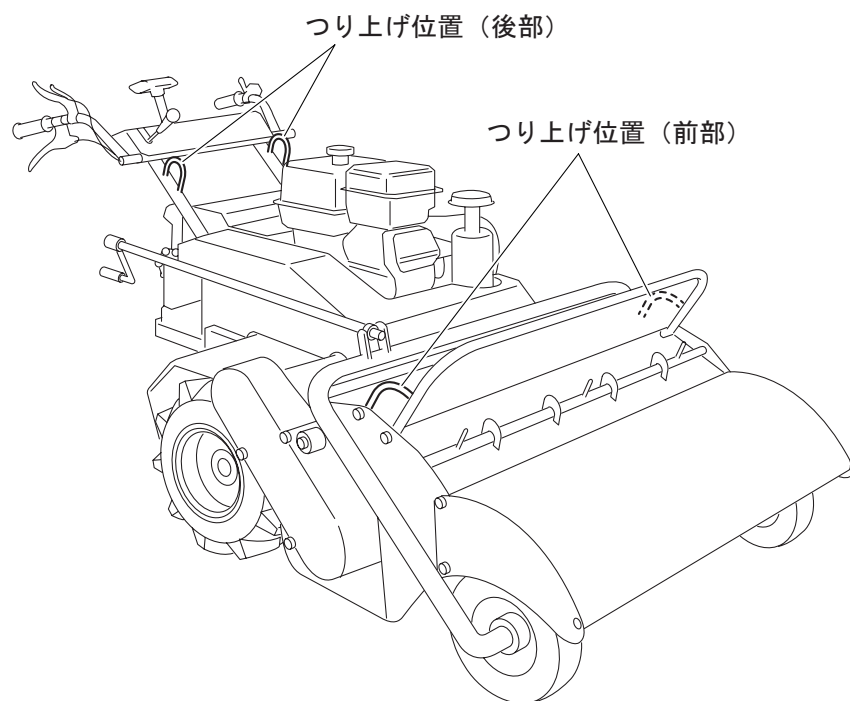
重要

ワイヤーロープは十分強度のあるものを使用してください。

トラックやトレーラーに機械を積載するときなど、機械全体をつり上げる必要がある場合は、以下の位置で行ってください。

機械前部と後部の4か所のつり上げ金具にシャックルでワイヤーロープを確実にかけて、機械全体をつり上げてください。

機械を降ろすときは、機械の水平に保ち、前輪と後輪が左右同時に接地するようにしてください。



14. 長期保管

1. 清掃

- 車両本体およびエンジンなどの泥や草屑、油汚れなどをきれいに落としてください。

2. オイル交換

- エンジンオイル、油圧作動油、エレメントの点検と交換をしてください。

3. 注油

- 各注油箇所にグリース注入、塗布と注油をしてください。

4. バッテリー

- バッテリーのマイナス配線を取り外してください。

5. 燃料

- 燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。

6. タイヤの空気圧

- 標準よりやや高めにし、湿気から守るために板の上に載せてください。

7. 格納場所

- 雨のかからない乾燥した場所で、カバーなどをかけてください。

メンテナンス

15. メンテナンス上の注意



注意

実施するメンテナンスを熟知してから行ってください。

重要

メンテナンスを行う際に必要な工具は、目的にあったものを使用してください。

重要

常に安全に、最高の性能でお使い頂くために、交換部品やアクセサリは BARONESS 純正部品をお求めください。

純正部品以外の部品をご使用になった場合、製品保証を受けられなくなる場合がありますので、ご注意ください。

15-1. メンテナンス時の機械姿勢

重要

機械のメンテナンスを行うときなど、ハンドル側をつり上げた姿勢で長時間放置すると、エンジンの燃焼室にエンジンオイルが入り、エンジン不調の原因となることがありますので注意してください。

また、エンジンを水平な位置に戻してからオイルが戻るのに十分な時間を確保するため、10 分経過してからエンジンを始動してください。

16. メンテナンススケジュール

○…点検、調整、給油、清掃

●…交換

	メンテナンス	使用前	5H	10H	25H	50H	200H	300H	500H
エンジン	初期エンジンオイル		●						
	エンジンオイル	○			●				
	エアクリーナー	○							
	シリンダーフィン	○							
	燃料	○							
駆動部	初期ミッションオイル					●			
	ミッションオイル							●	
	初期油圧オイル					●			
	油圧オイル								●
	グリースアップ、注油					○			
	バッテリー液	○							
	タイヤ空気圧	○							
	中立位置	○							
	操向クラッチ	○							
	ナイフクラッチ	○							
	ブレーキ	○							
	V ベルトおよび V プーリー	○					●		
	消火器	○							
	各部のねじの緩み	○							
	刈草・ゴミなどの除去	○							
刈り取り部	ハンマーナイフ折損	○							
	ナイフ取付ボルトの緩み	○							
	ナイフ軸のグリースアップ			○					
	防護板、防護カバー	○							

◆上表の時間にとらわれず、必要に応じて早めに行ってください。

◆上記以外のメンテナンススケジュールについては、エンジンの取扱説明書を参照ください。

◆消耗品については、保証値ではありません。

17. ジャッキアップ

17-1. ジャッキアップについて



警告

タイヤ交換などの整備や修理を行う場合は、必ず輪止めなどをして、機械が動かないようにしてください。

機械をコンクリートなどの堅い平らな床に確実に駐車し、機械をジャッキアップする前に安全作業の妨げになる障害物を取り除いてください。

必要に応じ、適切なチェーンブロックやホイスト、およびジャッキを使用してください。

持ち上げている機械は、ジャッキスタンドや適切なブロックを使用し、確実に支えてください。

ジャッキスタンドや適切なブロックで機械を確実に支えられていない場合は、機械が動いたり、落ちたりするおそれがあります。

人身事故の原因となります。

重要

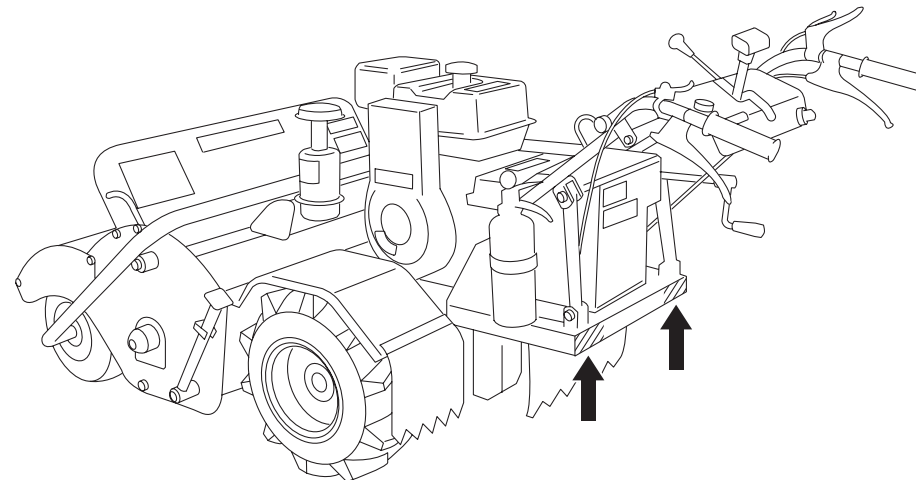
指示された位置以外では、ジャッキアップしないでください。

フレームや部品が破損します。

機械をジャッキアップする場合は、ジャッキアップポイントに記載してある位置で行ってください。

17-2. ジャッキアップポイント

フレーム後部



18. グリースアップ

18-1. グリースアップについて

可動部がグリース切れにより、固着したり、破損したりする可能性がありますので、グリースアップの必要性があります。

メンテナンススケジュールに従って、ウレア系 2 号グリースでグリースアップしてください。

その他指定のグリース、潤滑油を使用する場合は、「グリースアップ位置」に記載されています。

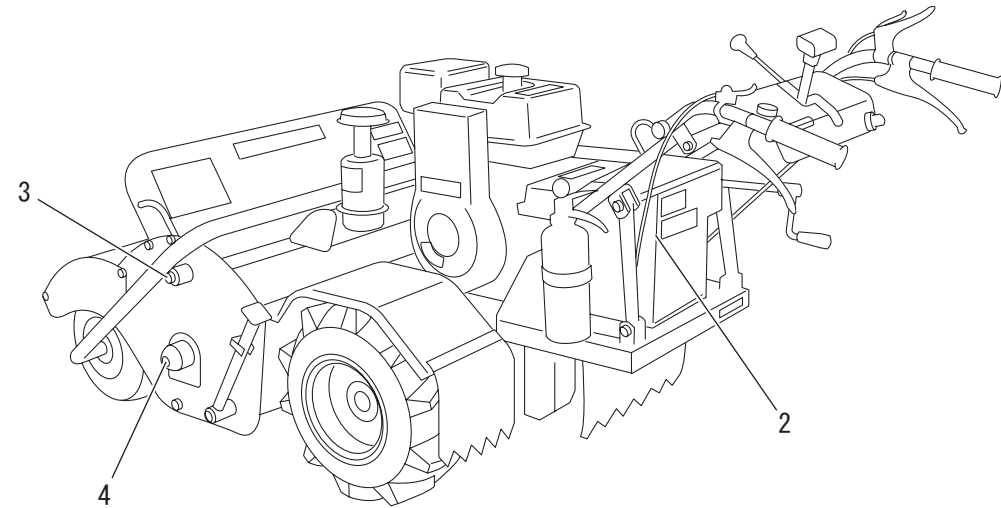
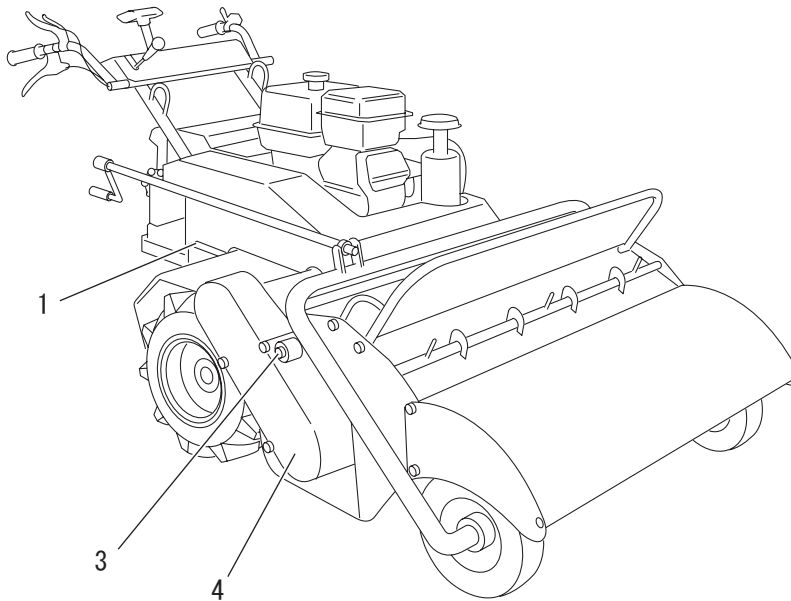
指定のグリース、潤滑油でグリースアップしてください。

18-2. グリースアップ位置

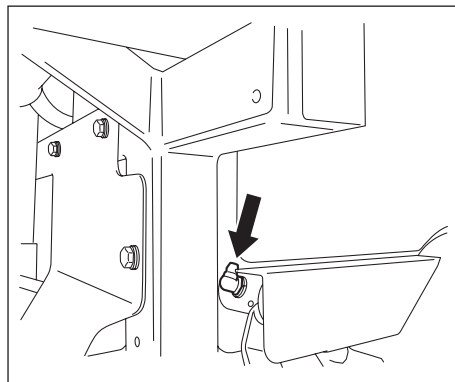
次の場所にグリースニップルが取り付けられています。

A は 10 時間ごと、B は 50 時間ごとにグリースアップしてください。

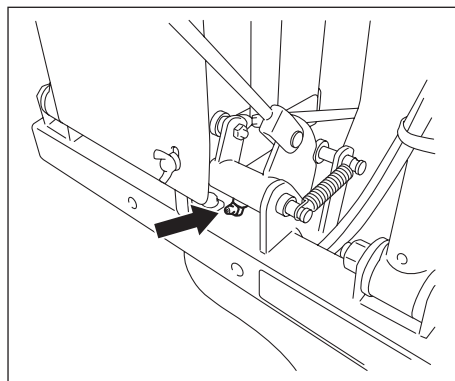
	部位	注油箇所数	注油時間
1	走行テンション支点部	1	B
2	走行用中継レバー支点部	1	B
3	前輪アーム支点部	2	B
4	ナイフ軸部	2	A



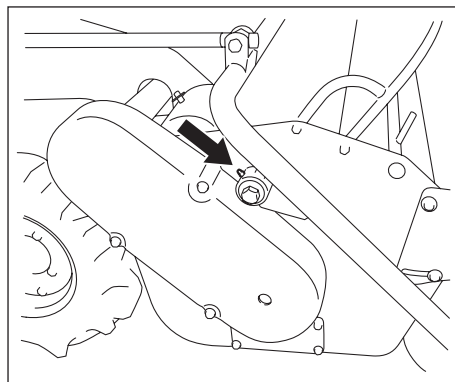
1. 走行テンション支点部
1 か所あります。



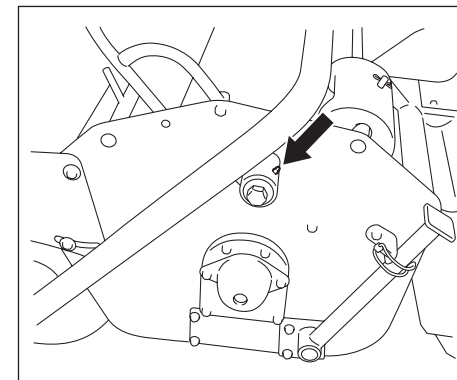
2. 走行用中継レバー支点部
1 か所あります。



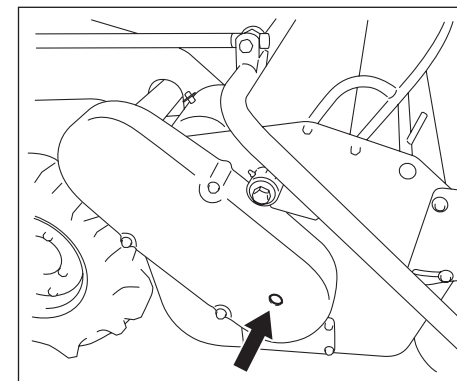
3. 前輪アーム支点部
左右各 1 か所あります。
右側



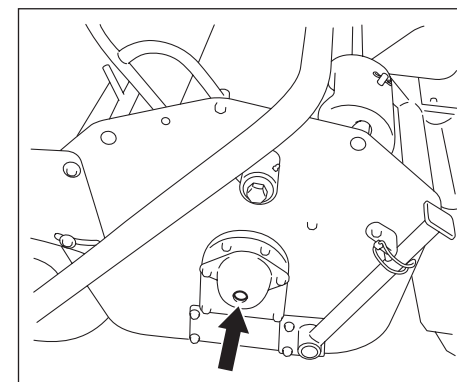
左側



4. ナイフ軸部
左右各 1 か所あります。
右側



左側



19. 注油

19-1. 注油について

可動部が固着したり、破損したりする可能性がありますので、潤滑剤を塗布する必要があります。

潤滑剤を使用する場所は、「注油位置」に記載されています。

潤滑剤を塗布してください。

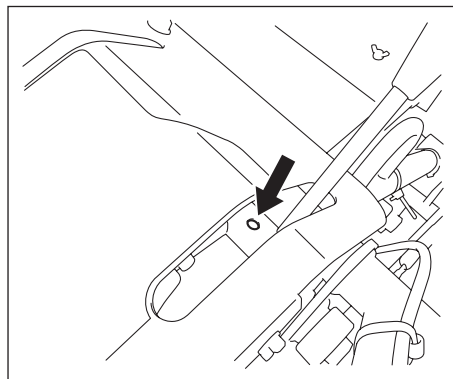
19-2. 注油位置

次の場所に注油口があります。

50 時間ごとに潤滑剤を塗布してください。

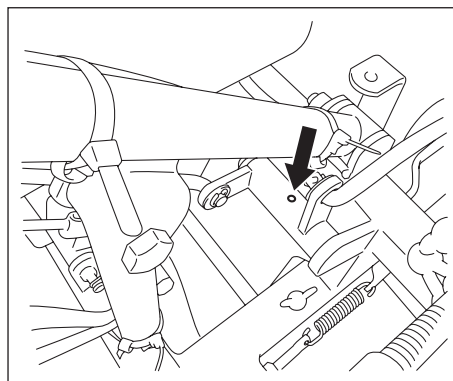
1. ナイフクラッチレバー支点部

1 か所あります。



2. ナイフクラッチ用中間レバー支点部

1 か所あります。



20. メンテナンスの方法

20-1. ナイフの反転

▲注意

ナイフは刃物です。

手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分気をつけてください。

▲注意

刃物に触れる場合は、手を切るおそれがありますので、手袋を着用してください。

▲注意

ナイフ軸 Assy は高速回転します。

バランスが崩れると異常振動が出て事故や故障の原因になったり、ケガをするおそれがあります。

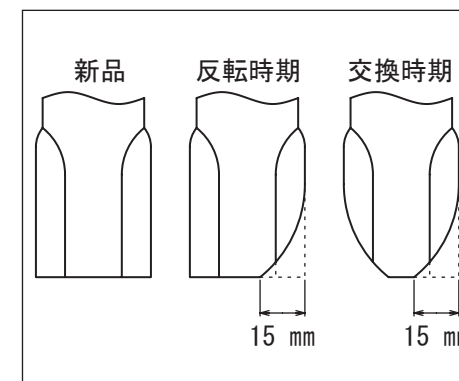
ナイフは両面刃がつけてあり、片面消耗した場合は反転して使用することができます。

片面消耗したナイフを取り外し、反対向きに取り付けて使用してください。

工場出荷時、ナイフ軸 Assy はバランスを取ってあります。

ナイフ軸 Assy に振動が出ていない場合は、同じ位置にナイフを取り付けてください。

ナイフ反転の基準は、以下のとおりです。



20-2. ナイフの交換



ナイフは刃物です。
手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分気をつけてください。



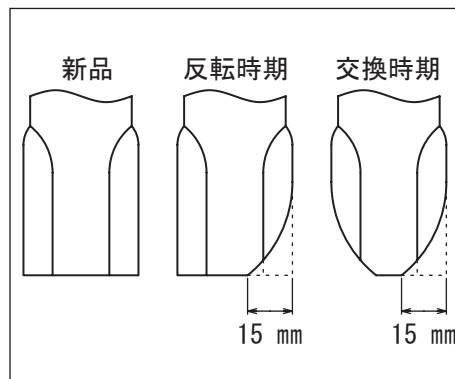
刃物に触れる場合は、手を切るおそれがありますので、手袋を着用してください。



ナイフ軸 Assy は高速回転します。
バランスが崩れると異常振動が出て事故や故障の原因になったり、ケガをするおそれがあります。

消耗したナイフでの作業は効率が悪く、バランスが崩れる原因となります。
消耗したナイフを取り外し、新品のナイフに交換してください。
工場出荷時、ナイフ軸 Assy はバランスを取ってあります。
ナイフの交換は、原則としてナイフ一枚一枚の質量が同じもので全数交換してください。
ナイフの折損などにより一部のナイフを交換する場合は、折損したナイフに隣り合う一番近いナイフも同時に交換してください。
このとき、ナイフ軸一周分のナイフを交換してください。
折損したナイフのみを交換するとバランスが崩れ、振動が出る場合があります。
ナイフの交換の基準は、以下のとおりです。

1. ナイフが曲がった場合。
2. ナイフが折損した場合。
3. ナイフが磨耗した場合。



ナイフの取り付け、取り外し



ナイフは刃物です。
手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分気をつけてください。



刃物に触れる場合は、手を切るおそれがありますので、手袋を着用してください。

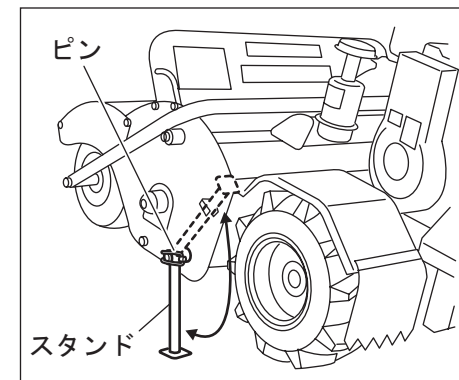


ボルトを緩めるとナイフが落下するおそれがありますので、十分注意して作業してください。

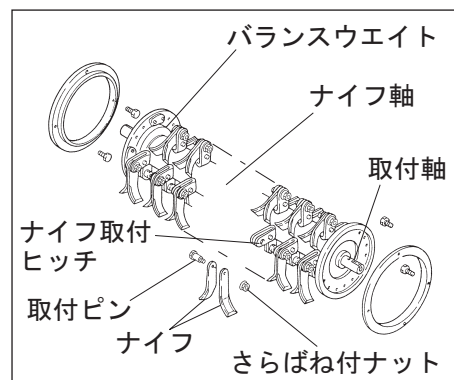


機械前部を浮かせて作業するときはスタンドを使用してください。

1. スタンドを使用して機械前部を上げてください。



2. さらばね付ナット、取付ピンを取り外してください。
3. ナイフを取り外してください。



▲注意

ナイフ軸 Assy は高速回転します。
バランスが崩れると異常振動が出て事故や故障の原因になったり、ケガをするおそれがあります。

重要

さらばね付ナット、取付ピンは、変形がある場合とナイフを新品に交換した場合は、新品に交換してください。

参考：

さらばね付ナットは、脱着を繰り返すと本来の緩み止めの機能が得られなくなります。

重要

取付ピン（さらばね付ナット）の締め付けトルクは、19 N・m (193.7 kgf・cm) です。

重要

取付ピンは、取り外す前と同じ向きに取り付けてください。

取り付けは、取り外しの逆の方法で行ってください。

20-3. ナイフ軸 Assy のバランス取り

▲注意

ナイフは刃物です。
手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分気をつけてください。

▲注意

刃物に触れる場合は、手を切るおそれがありますので、手袋を着用してください。

▲注意

ナイフ軸 Assy は高速回転します。
バランスが崩れると異常振動が出て事故や故障の原因になったり、ケガをするおそれがあります。

▲注意

ナイフ軸 Assy のバランス取りは、知識や技術のない人が行くと、事故や故障またはケガの原因になります。

工場出荷時、ナイフ軸 Assy はバランスを取ってあります。

ナイフ軸 Assy のバランス取りは、必ずお買い求めの販売店または、弊社に依頼してください。

参考：

ナイフ軸 Assy を取り外す場合は、ナイフ軸カバー、ベルト、ナイフ軸プーリーを取り外して、左右の側板ツギ板とナイフ軸メタル Assy を取り外すと、ナイフ軸 Assy がそのまま下に外れます。

20-4. ベルトの張り調整



警告

ベルトの調整を行う場合は、必ずエンジンを停止してください。



警告

カバーなどを取り外した場合は、必ず元の位置に確実に取り付けてください。
カバーなどが取り外されていると、回転物やベルトに触れたり、異物が飛散してケガをするおそれがあります。

重要

ベルトの張りは、調整値を確認してください。
規定値であるかの確認は、ベルトを数回転させた後に行ってください。

使用頻度により、ベルトが緩いと踊ったり、スリップする可能性があります。

また、張り過ぎると損傷が早くなる可能性があります。

必要に応じて調整し、いつも適正な張り具合に保ってください。

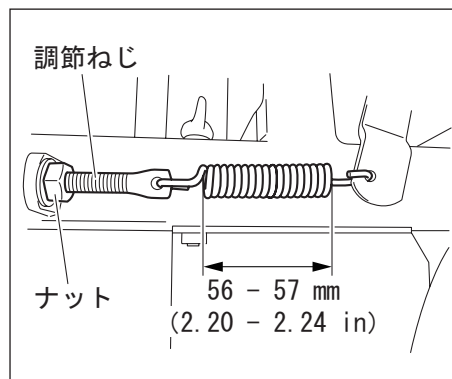
走行用ベルト

走行レバーを操作して、以下のことを確認してください。

- 走行クラッチレバーが正常に動くこと。
- テンションスプリングが適正に張られていること。

HST プーリーとエンジンプーリーにかけてある走行ベルトの調整は、調節ねじで行ってください。

ばねの長さが、56 - 57 mm (2.20 - 2.24 in) あれば適正です。



ナイフベルト（エンジン - 中間軸）

ナイフクラッチレバーを入れたり切ったりして、以下のことを確認してください。

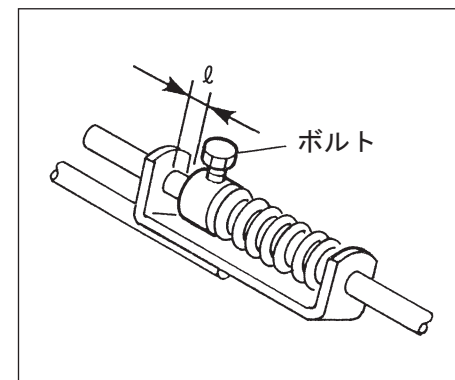
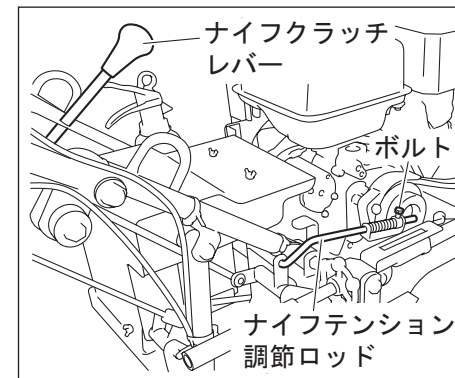
- ナイフクラッチレバーが正常に動くこと。
- テンションスプリングが適正に張られていること。

エンジンプーリーと中間軸プーリーにかけてあるナイフベルトの張りは、ナイフテンション調節ロッドの伸縮で調整します。

1. ナイフクラッチレバーを「入」の位置にしてください。

2. ボルトを緩め、テンションスプリングの長さを調整してください。

ベルトを張ったときのℓ寸法が 7 - 8 mm (0.28 - 0.31 in) になるように調整してください。

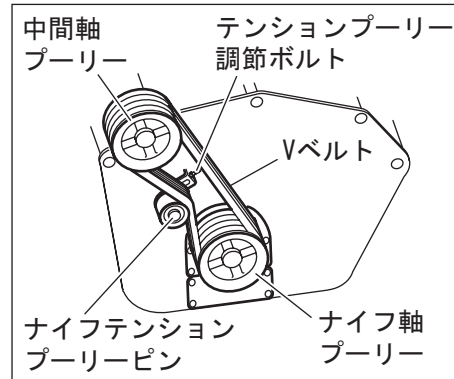


3. ボルトを締め付けてください。

ナイフベルト（中間軸 - ナイフ軸）

1. ナイフベルトカバーを取り外してください。
2. 中間軸プーリーとナイフ軸プーリーにかけてあるナイフベルトの張り具合を確認してください。

ベルトの張りは、ベルトのプーリー間の中央を指で軽く 25 N (2.5 kgf) で押さえて 5.0 - 10.0 mm (0.20 - 0.39 in) たわむ程度であれば適正です。



3. ベルトの張りが適正でない場合は、以下の手順でベルトの張りを調整してください。
 - [1] ナイフテンションプーリーピンを緩めてください。
 - [2] テンションプーリー調節ボルトのナットを緩めてください。
 - [3] ベルトの張りが規定値になるようにナットを締め付けて、テンションプーリーの位置を調整してください。
 - [4] ナイフテンションプーリーピンを締め付けて、再度ベルトの張りを確認してください。
 - [5] ナットをロックしてください。
 - [6] ナイフベルトカバーを取り付けてください。

20-5. ベルトの交換

警告 ベルトの交換を行う場合は、必ずエンジンを停止してください。

警告 カバーなどを取り外した場合は、必ず元の位置に確実に取り付けてください。カバーなどが取り外されていると、回転物やベルトに触れたり、異物が飛散してケガをするおそれがあります。

注意 ベルトを装着するときは、プーリーとベルトの間に手を挟まないように注意してください。

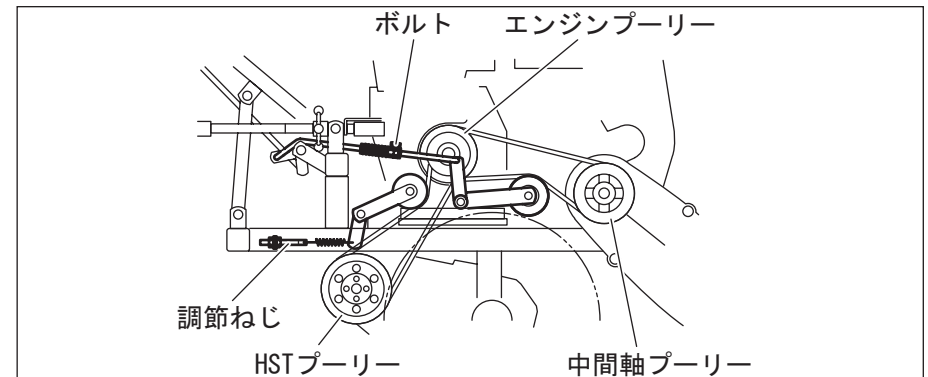
重要 ベルトの交換は、必ず各プーリーが平行になっているかを確認してください。プーリーが平行になっていないとベルト破損の原因となります。

重要 ベルトの強度は、W600 を使用してください。

ベルトの交換は、カバーとベルトストッパーを取り外し、テンションを緩めてから行ってください。

走行ベルトは、HST プーリーのボルトを緩め、プーリーをスライドさせてベルトを取り外してください。

ベルトストッパーを取り付ける際は、ベルトを張ってベルトとの間にすき間があることを確認してから締め付けてください。

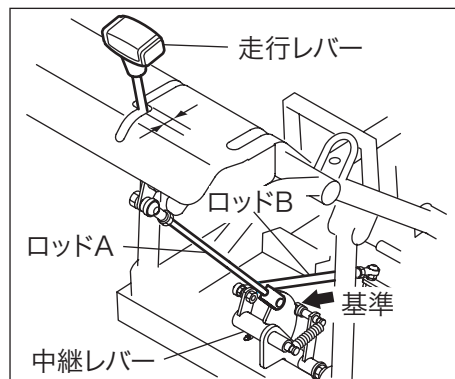


20-6. 走行レバーの中立調整

走行レバーの中立調整は、中継レバーとベアリングの勘合位置を基準に、ロッドA・Bをそれぞれ調整します。

ロッドAの長さ調整で、走行レバーを溝の中央に合わせてください。

ロッドBの長さ調整で、機械が停止するように調整してください。



20-7. ブレーキの調整

▲注意

ブレーキワイヤーが切れると、この機械は停止不能となります。
亀裂、損傷などがある場合は、直ちに交換してください。

▲注意

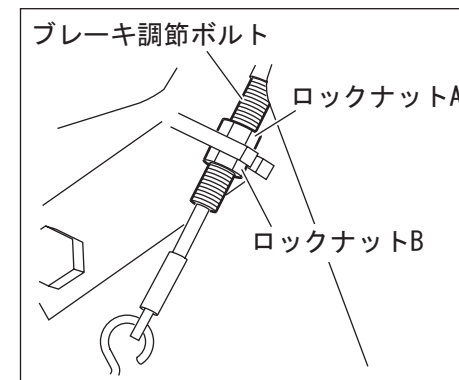
ブレーキをかけても、ブレーキの効きが悪くなら、ブレーキワイヤーの調整をしてください。

重要

ワイヤーの引きすぎは、ブレーキシューの異常磨耗や焼き付きの原因になります。

ブレーキは、ブレーキワイヤーのブレーキ調節ボルトで調整してください。

1. 走行レバーを「切」の位置にしてください。
2. ロックナットAを緩め、ブレーキ調節ボルトをブレーキが効く位置に調整し、ロックナットBを確実に締め付けてください。
3. 走行レバーを前に倒したときに、ブレーキシューがブレーキドラムに当たっていないことを確認してください。
ブレーキの引きずりを防止します。
4. 走行レバーを手前に倒したときに、ブレーキが効くことを確認してください。



20-8. 操向クラッチの調整



クラッチの作動確認は、周囲に人や障害物が無いことを確認して、広い水平な場所で行ってください。



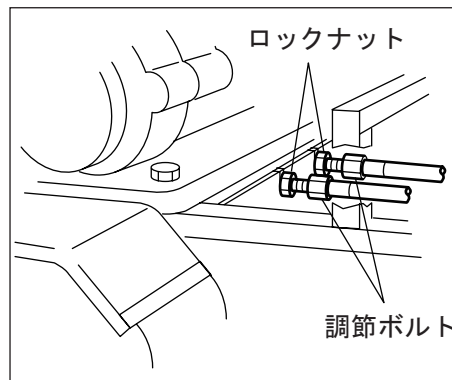
ワイヤーの引きすぎは、クラッチ破損の原因になります。

操向クラッチは、操向クラッチワイヤーの調節ボルトで調整してください。

左右それぞれの操向クラッチを調整してください。

調節ボルトは、右側がクラッチワイヤー左、左側がクラッチワイヤー右です。

1. ロックナットを緩めてください。
2. 調節ボルトで操向ワイヤーを張り、クラッチが効く位置に調整してください。
3. ロックナットを締め付けてください。



4. 機械を低速で走行させて、操向クラッチレバーを1/3握ったときにクラッチが切れることを確認してください。

20-9. エアクリーナーの交換

エアクリーナーエレメントが汚れていると、エンジン不調の原因となります。

エンジンの寿命を延ばすために適切な時期に交換をするように心掛けてください。

1. エアクリーナーエレメントの交換時期は、以下のとおりです。

[1] エアクリーナーエレメントは、メンテナンススケジュールに従って交換してください。

[2] 汚れの多い場合は、規定時間に達していなくても交換してください。

2. エアクリーナーエレメントの交換は、エアクリーナーの清掃と同様の手順で行ってください。

20-10. エンジンオイルの交換



熱いオイルが皮膚に付くと火傷をするおそれがありますので、十分注意してください。



エンジンオイルを交換する場合は、エンジンオイルを容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。



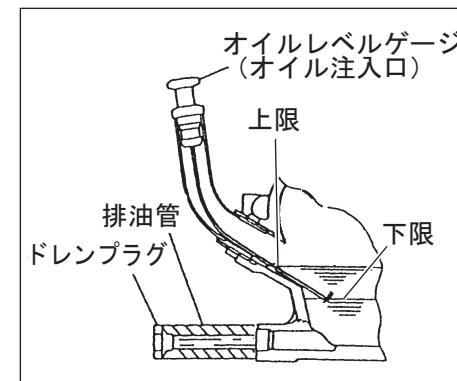
エンジンオイルは、API サービス分類の SE 級以上で、使用環境（気温）に合わせた SAE 粘度のオイルを使用してください。



オイルレベルゲージは、確実にねじ込んでください。

エンジンオイルが汚れていたり、埃の多い環境で運転した場合や、エンジンを高負荷あるいは高温で運転した場合は、オイル交換の回数を増やしてください。

1. 機械を平らな場所に移動させ、エンジンを停止してください。
2. エンジンオイルが温まっている間にドレンプラグを取り外し、エンジンオイルを容器に抜き取ってください。
3. ドレンプラグをエンジンに再度取り付けてください。
4. オイルレベルゲージを取り外してください。
5. オイル注入口から新しいエンジンオイルを入れてください。
エンジンオイル量は、 1.0 dm^3 (1.0 L) です。
6. エンジンを水平な状態にし、注入口からオイルレベルゲージをねじ込まずにエンジンオイル量を調べてください。



7. オイルレベルゲージで量を確認した後、不足していれば追加してください。
8. オイルレベルゲージを確実にねじ込んでください。
9. 機体の下を確認し、油漏れが無いことを確認してください。

20-11. ミッションオイルの交換

▲注意

熱いオイルが皮膚に付くと火傷をするおそれがありますので、十分注意してください。

重要

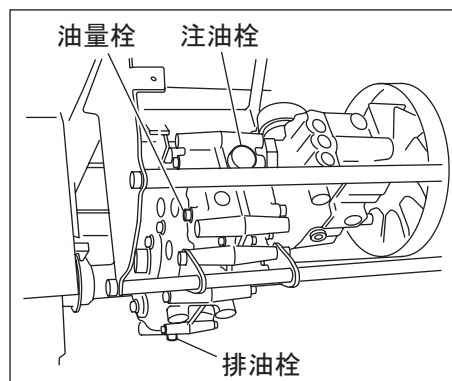
ミッションオイルを交換する場合は、ミッションオイルを容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。

重要

ミッションオイルは、自動車用ギヤオイルで、SAE 粘度分類の 90 番を使用してください。

ミッションオイルは、メンテナンススケジュールに従って交換してください。

1. 機械を平らな場所に移動させ、エンジンを停止してください。
2. ミッションオイルが温まっている間に排油栓を取り外し、ミッションオイルを容器に抜き取ってください。
3. 排油栓をミッションに取り付けてください。
4. 注油栓と油量栓を取り外してください。
5. 注油口より、新しいミッションオイルを入れてください。
ミッションオイル量は、 1.5 dm^3 (1.5 L) です。
6. ミッションオイルが油量栓の口元まで入っていることを確認してください。
7. 注油栓と油量栓を取り付けてください。
8. 機体の下を確認し、油漏れが無いことを確認してください。



20-12. 油圧作動油の交換

▲注意

熱いオイルが皮膚に付くと火傷をするおそれがありますので、十分注意してください。

重要

作動油を交換する場合は、作動油を容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。

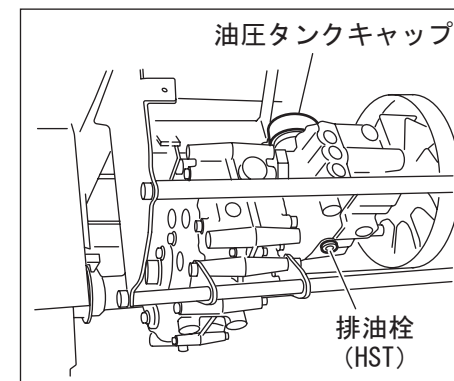
重要

異なった種類の作動油を混ぜないでください。

重要

作動油は、CD 級エンジンオイル 10W-30 を使用してください。

1. 以下の要領で、古い作動油を抜き取ってください。
 - [1] エンジンを始動し、作動油を温めてください。
 - [2] 水平な場所で、エンジンを停止してください。
 - [3] 排油栓を取り外し、作動油を容器に抜き取ってください。
 - [4] 排油栓を油圧タンクに再び取り付けてください。
2. タンクキャップを開け、中蓋を取り外してください。
3. 作動油を油面が油圧タンクの上限（最高液面線）と下限（最低液面線）の間になるまで入れてください。
油圧タンク容量は、約 0.5 dm^3 (0.5 L) です。
4. タンクキャップを確実に閉めてください。
5. エンジンを始動し、前後進を数度繰り返してください。
6. 油面が油圧タンクの上限（最高液面線）と下限（最低液面線）の間にあるか確認し、必要があれば補給してください。
7. 機体の下を確認し、作動油漏れが無いことを確認してください。



20-13. ヒューズの交換

重要

電気システムのメンテナンスを行う場合は、必ずバッテリーのマイナス配線を取り外してください。

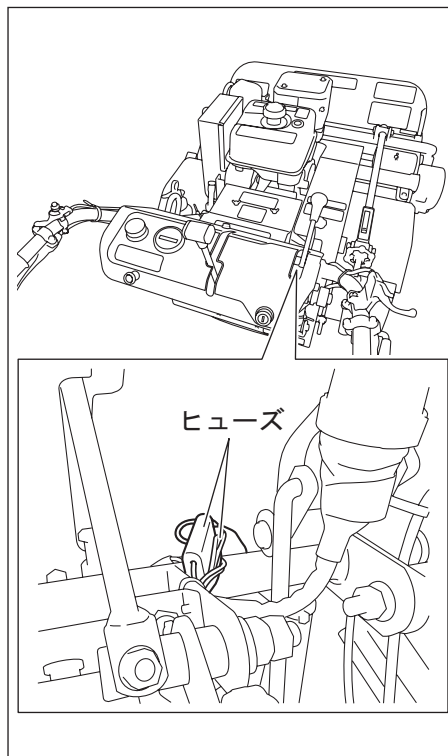
重要

ヒューズが切れた場合は、電気回路内で短絡が生じている可能性があります。端子の接続不良、配線、端子の損傷、配線の組み間違いなど、原因を調べてください。

重要

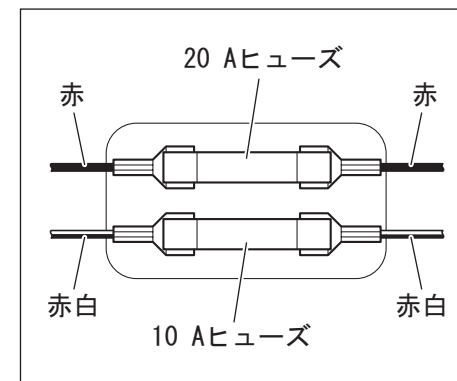
ヒューズを交換するときは、ヒューズを取り付ける前にヒューズ取り付け部を圧縮空気で清掃してください。

ヒューズは操作パネルの裏側にあり、回路全体のメインハーネスヒューズがあります。



規定容量のヒューズと交換してください。

- ガラス管ヒューズ 20 A
- ガラス管ヒューズ 10 A



MEMO



株 式 会 社 共 栄 社

〒442-8530
愛知県豊川市美幸町1-26

TEL (0533) 84-1221
FAX (0533) 84-1220